

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

# 横浜みどりアップ計画4か年の評価・提案 骨子案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2023 年 ○月

## 目 次

1	はじめに .....	1
2	横浜みどリアップ計画と市民推進会議 .....	2
	(1) 横浜みどリアップ計画	
	(2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議	
3	市民推進会議の活動実績 .....	5
	(1) 活動の概要	
	(2) 活動の詳細内容	
	①市民推進会議（全体会議）	
	②施策別専門部会	
	③広報・見える化部会	
	④調査部会（現地調査）	
4	横浜みどリアップ計画 4か年の評価・提案 .....	16
	◆計画の体系	
	◆各計画の柱のハイライト	
	◆評価・提案の概要	
	(1) 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む .....	21
	施策1 樹林地の確実な保全の推進	
	施策2 良好な森を育成する取組の推進	
	施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	
	(2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる .....	29
	施策1 農に親しむ取組の推進	
	施策2 地産地消の推進	
	(3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる .....	38
	施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	
	施策2 緑や花に親しむ取組の推進	
	(4) 効果的な広報の展開 .....	46
	市民の理解を広げる広報の展開	
5	市民推進会議委員名簿 .....	51
6	市民推進会議委員からのコメント .....	54
7	市民推進会議広報誌「Yokohama みどリアップ Action」、 「森づくり体験会」の案内チラシ .....	55

## 1 はじめに

進士座長による  
メッセージ

横浜みどりアップ計画市民推進会議  
座長 進士 五十八

## 2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

### (1) 横浜みどりアップ計画

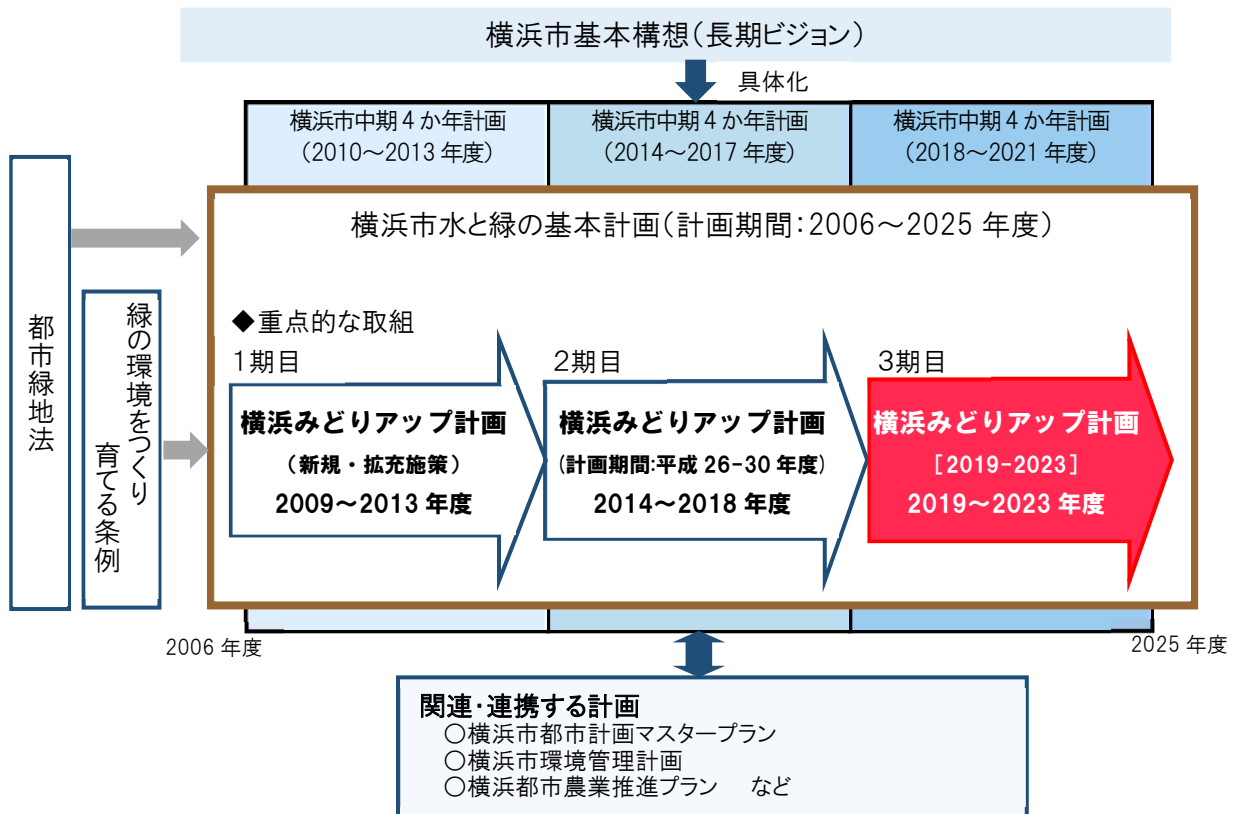
#### ア 位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は2025年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

1期目となる「横浜みどりアップ計画(新規・拡充施策)」は、2008年度までの取組を強化・充実するため2009年度から2013年度までの5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、取組を進めるための重要な財源として2009年度から導入されました。

緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、2期目となる「横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)」が策定されました。

さらに、2期目の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、3期目となる「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画 [2019-2023] の位置付け



## イ 横浜みどりアップ計画[2019-2023]の構成

2019年度より、3期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑や花をつくる」を3つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

### 計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

#### 5か年の目標

##### 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など

##### 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

##### 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

#### 計画の柱 1

##### 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

#### 計画の柱 2

##### 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

#### 計画の柱 3

##### 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。



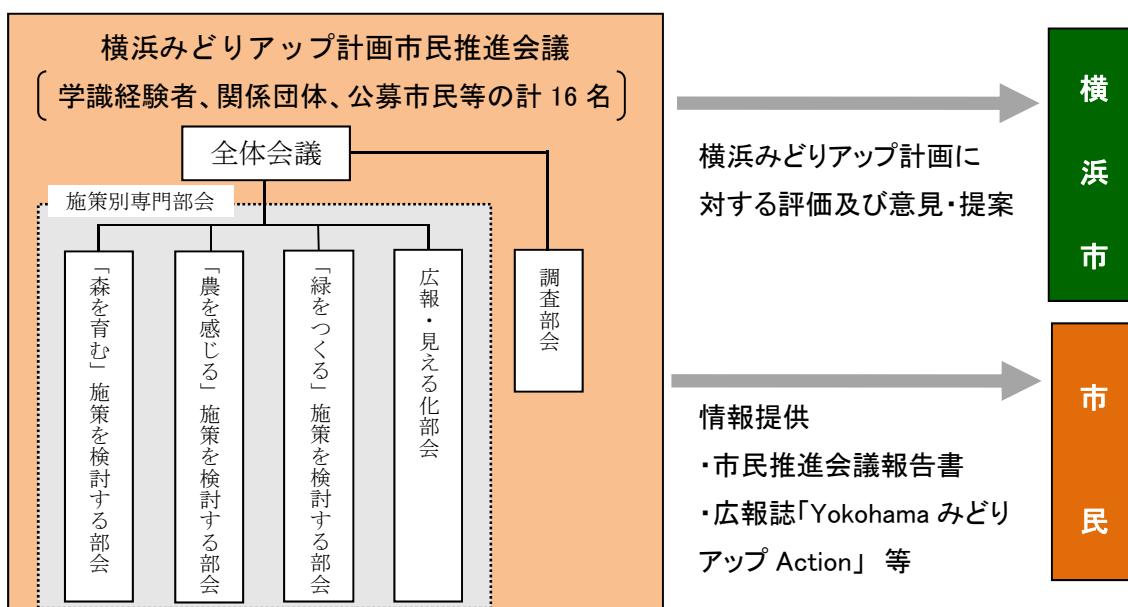
#### 効果的な広報の展開

## (2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民への情報提供等を行うことを目的として、2009年に設置され、2012年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や施策別専門部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価・提案を行ってきました。

横浜みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議の取組は大きな役割を果たしており、3期目の横浜みどりアップ計画についても継続して活動することとなりました。

2019年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。(〇頁に委員名簿を掲載)



横浜市附属機関設置条例第2条第2項本文：

附属機関(※)の担任する事務は、別表担当事務の欄に掲げるとおりとする。

別表(抜粋)

執行機関	附属機関	担当事務	委員の定数
(中 略)			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市内の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
(以下省略)			

※附属機関とは、法律又は条例に基づき設置する機関で、市長等の執行機関の要請により、行政執行のために必要な審査、審議、調査等を行うことを職務とする機関。

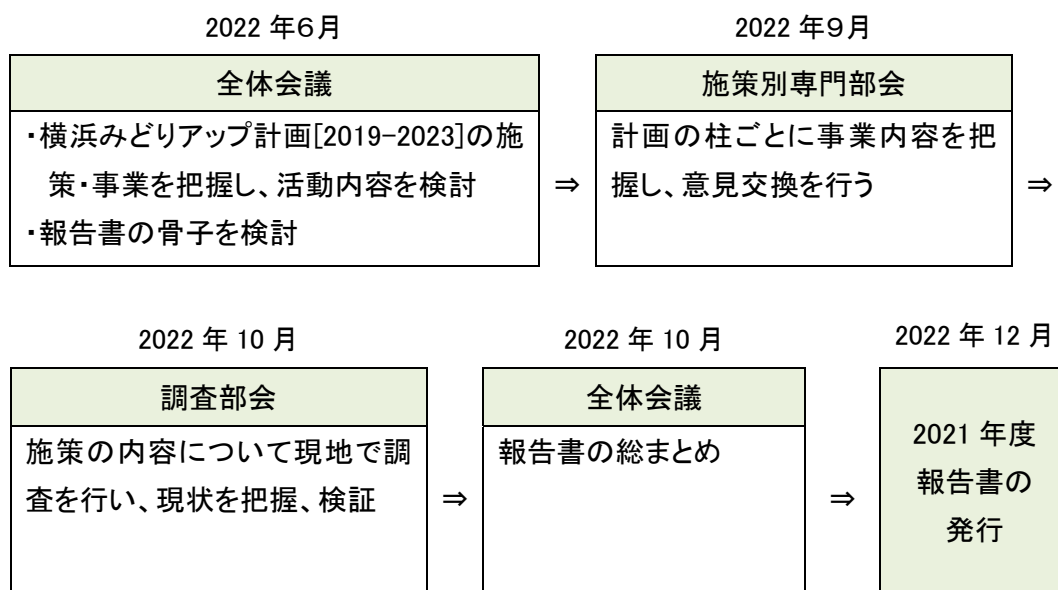
### 3 市民推進会議の活動実績

#### (1)活動の概要

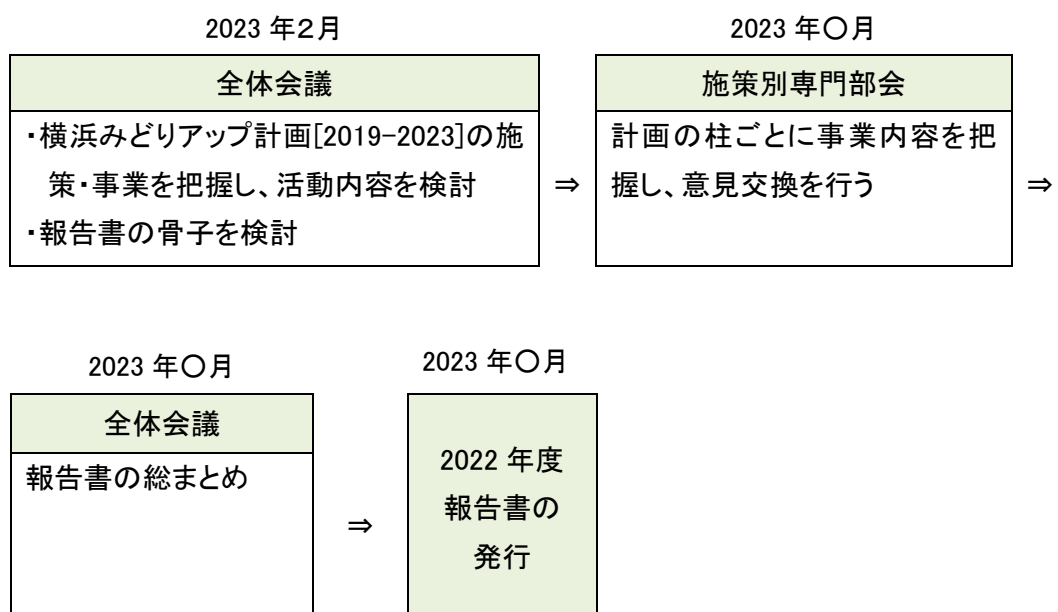
市民推進会議の主な活動は、「横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案」と「市民への情報提供」の2つです。

#### ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案

##### 【2021 年度報告書】

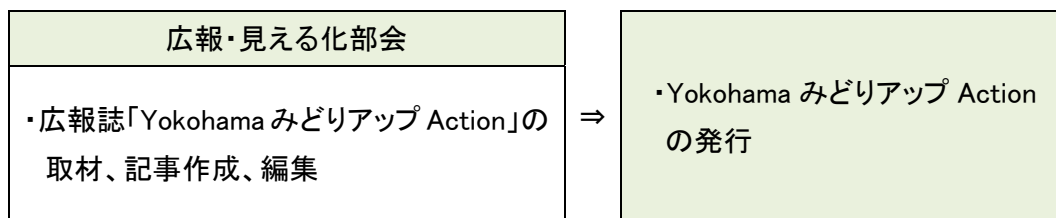


##### 【2022 年度報告書】



## イ 市民への情報提供

2022年8月・9月・11月・2023年〇月



2022年度は引き続き新型コロナウイルス感染症防止対策として、WEBを併用したり  
モート会議の開催や飛沫感染防止のマスク着用、手指消毒の徹底をしながら活動に  
取り組みました。

### (2) 活動の詳細内容

#### ア 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内  
容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応  
答、意見交換を行いました。

##### (ア) 第36回市民推進会議(2022年6月15日)

- ・横浜みどりアップ計画3か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2021年度報告書骨子案について

##### (イ) 第37回市民推進会議(2022年10月28日)

- ・横浜みどりアップ計画3か年の事業実績について
- ・市民推進会議 2021年度報告書(案)について
- ・市民推進会議 2023年度の取組について



##### (ウ) 第38回市民推進会議(2023年2月3日)

- ・横浜みどりアップ計画4か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2022年度報告書骨子案について
- ・これからの緑の取組[2024-2028](素案)について

##### (エ) 第39回市民推進会議(2023年〇月〇日)

- ・横浜みどりアップ計画4か年の事業実績について
- ・市民推進会議 2022年度報告書(案)について

## イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。

※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

(ア) 第15回「森を育む」施策を検討する部会(2022年9月6日)

・「森を育む」施策の評価・提案について

(イ) 第15回「農を感じる」施策を検討する部会(2022年9月15日)

・「農を感じる」施策の評価・提案について

(ウ) 第15回「緑をつくる」施策を検討する部会(2022年9月6日)

・「緑をつくる」施策の評価・提案について

(エ) 第16回「森を育む」施策を検討する部会(2023年〇月〇日)

・「森を育む」施策の評価・提案について

(オ) 第16回「農を感じる」施策を検討する部会(2023年〇月〇日)

・「農を感じる」施策の評価・提案について

(カ) 第16回「緑をつくる」施策を検討する部会(2023年〇月〇日)

・「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を検討する部会



「農を感じる」施策を検討する部会



「緑をつくる」施策を検討する部会

## ウ 広報・見える化部会

2014年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、施策別専門部会として横浜みどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、横浜みどりアップ計画や横浜みどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集を行っています。

広報誌「YokohamaみどりアップAction」では、横浜みどりアップ計画の取組が進んでいる現場取材した上で、緑の魅力をいかに伝え、「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような内容とするために毎号議論を重ね、市民目線の現場レポートを作り上げています。2022年度は第7・8号を発行しました。駅及び主要な公共施設のPRボックスや、各区役所・土木事務所・公園緑地事務所等の公共施設で配布するとともに、市のホームページでも公開しています。

### (ア) みどりアップ Action 第7号取材(2022年7月5日)

- ・ テーマ：市民農業大学講座  
(保土ケ谷区環境活動支援センター)

### (イ) 第50回広報・見える化部会(2022年8月12日)

- ・ Yokohama みどりアップAction 7号原稿案について
- ・ Yokohama みどりアップAction 8号記事内容について

### (ウ) 第51回広報・見える化部会(2022年9月21日)

- ・ 広報事業の評価・提案について

### (エ) みどりアップ Action 第8号取材(2022年9月13日、10月10日)

- ・ テーマ：森づくりボランティア入門講座  
(緑区にいほる里山交流センター／新治市民の森)

### (オ) 第52回広報・見える化部会(2022年11月25日)

- ・ Yokohama みどりアップAction 8号原稿案について
- ・ 2023年度Yokohama みどりアップAction について

### (カ) 第53回広報・見える化部会(2023年〇月〇日)

- ・ 広報事業の評価・提案について



Action 第7号取材の様子



広報・見える化部会



2022 年度に発行した「Yokohama みどリアップ Action」

○ YokohamaみどリアップAction 第7号

《発行月》 2022年10月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 市民農業大学講座

(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



**遊ぶだけが公園じゃない！野菜づくりをはじめませんか？**  
農園付公園の一つである「岡津町ふれあい公園」。大人から子どもまで楽しめる野菜づくりを通じた地域交流を紹介しています。お近くの農園付公園を探してみたいはいかがでしょうか。

○ YokohamaみどリアップAction 第8号

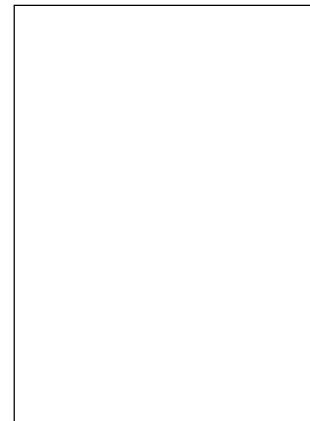
《発行月》 2023年2月

《発行部数》 18,500部

《テーマ》 森づくりボランティア入門講座

(緑区にいはる里山交流センター／新治市民の森)

○○○○  
○○○○ . . . . .



## エ 調査部会(現地調査)

### <第22回調査部会>

日 時 2022年10月21日(金) 午後1時10分～午後4時45分  
参 加 者 委員8名  
調査場所 フローラルつなしま運営委員会(港北区)  
環状2号線 新横浜駅周辺(港北区)  
今井・境木市民の森(保土ヶ谷区)  
本宿農園(旭区)

- (ア) 市民と連携した緑のまちづくりに取組む現場を調査(フローラルつなしま運営委員会)  
港北区綱島西で市民との協働により緑化を進めている現場を見学しました。取組を進めたフローラルつなしま運営委員会の方々から、緑化計画や活動の概要、まちの歴史などについて説明を受けました。



育苗場所の視察



まちのシンボルとなっている「ピーチ花壇」

### <委員の感想や主な意見>

- 綱島地域のガーデニングは綱島地区センターが起点になり、点から線、線から面へと緑化ゾーンが着実に拡大したとのこと。緑化された花壇やプランターには、みどりアップ計画のロゴプレートが設置されているものもありました。
- 綱島消防出張所の緑化地では、屋根からの雨水を溜める雨水貯留タンクが設置され、近辺の緑化活動にも利用されています。また、この地域の土壌は、粘土質の層が多いとのことでした。雨水の土壌浸透を促すため、竹の節を抜いて筒状にしたものを植栽した土壌の粘土層の下まで穴を開けて通し、雨が浸透する工夫をしていました。竹の利用は、素晴らしいアイデアだと思います。これらグリーンインフラの活用を含む地域緑化はSDGsとの親和性が高いまちづくりだと感心しました。
- 地区センターや綱島地区センターガーデニングクラブの方などの参画者がしっかり確保できており、組織面が非常に優れていると思います。
- プランターを商店前に設置し、数を多く増やしていることに加え、その管理をそれぞれ設置された場所の方が担当している点は、この取組が面的に拡大するために重要なポイントだと思います。



- 個々に活動していたグループを一つにまとめ、地域全体を引っ張って行った委員長が素晴らしいです。10回を数えるオープンガーデンを行っている下地があったからでしょうか。花好きの上に行動力も素晴らしいです。
- 綱島地区地域緑化活動のすばらしさに感心しました。各種団体の活動、オープンガーデンを通しての市民との関わり、対話等が非常に良いことだと思いました。運営委員の皆様のお苦勞により、市民に喜ばれる地域の花と緑のまちづくり事業をこれからも推進される事を希望します。
- 地元の方の熱意がすばらしい。消防署の協力が得られたのは大ヒットです。ぜひ、次世代に引き継がれていってほしいです。
- 市民の活動をつくり出すことができる「地域緑のまちづくり事業」はよい取組だと思う。
- 地域の自治会と商店会、また、消防署等との連携が良く、それぞれの拠点での植栽のつくり方に個性が出ていました。
- 歴史的な背景も取り入れて、これまで住まわれていた方に加え、新たに住民となる人ともみどりを介してコミュニケーションが取れることが期待できると思われました。
- 綱島の商店街周辺に、これほどに細かく緑が施されているのを見て、素敵だと感じました。
- 地域住民の方のボランティアによる維持管理ということですが、綱島地区の緑化に関心を持っている住民がこれほどに多いことに感心しました。皆さんの“緑のある明るいまちづくり”に対する意識の高さを感じます。消防署に配置されている、ポンプを模した形の貯水タンクなど、防災を視野に入れた工夫もよいと感じました。
- 水害の歴史を教訓となってまちづくりにいかされていると思います。
- 消防署とタイアップした雨水の活用設備の設置、商店街の花壇の設置推進ほか、いくつかの取組を見学、研修させていただきました。
- 他の地域でも参考になる取組事例が多々あると思い非常に参考になりました。また、その地域の歴史に関係した取組の考えにも触れ大変参考になりました。

(イ) 街路樹による良好な景観の創出・育成現場を調査

(街路樹の良好な維持管理 環状2号線 新横浜駅周辺)

環状2号線の新横浜駅周辺の街路樹が良好に維持管理されている様子を車窓から見学し、事業説明を受けました。

<委員の感想や主な意見>

- バスの窓から見る環状2号線は、多様な街路樹が並び、枝のバランスもよく表情豊かな道路だなと感じました。目安として3年に1度は、剪定作業を行い、剪定結果は記録し持続的な維持管理に利用しているとの話を聞き納得しました。
- 街路樹の剪定に対して、自然樹形を目指しつつ、道路の妨げにならないように工夫されているという説明は興味深かったです。



整備された街路樹

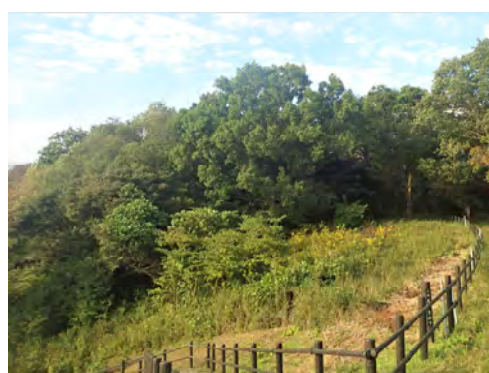
- イチヨウ、ユリノキは太く、大きくなるので、ゆったりした歩道でなければむり、近年はヤマボウシ、ハナミズキ、サルスベリ、クログネモチ等、高さを抑え、あまり太くならず、根も張らない樹木が植えられているが、横に根が張り、剪定が難しいのではないのでしょうか。わき芽もよく出るし、こまめに気を付ける必要があります。
- 新横浜周辺の各種高木の街路樹が良く管理されていて、まちの緑としてなくてはならないと思いました。
- 環状2号線の高木、低木も良く管理されていて、道路の景観が良かったです。
- 交通量の多い中での作業であり、業者の方も御苦労が感じました。
- いきいき街路樹事業によって、良好な剪定がされている道路はきれいです。新横浜通りは片倉町入口まで延ばしてほしい。片倉町駅に向かう道の街路樹は手入れされていない状態で、毎日乗降して目にするたびにがっかりします。多分、市民はいきいき街路樹事業を知らないので、どうすれば美しい街並みになるかわからないのだと思います。このような事業があることをアピールして、市民から応募ができるとういと思いました。
- 自然樹形に配慮しての剪定箇所は、これまでの強剪定と歴然とした景観に差が出来ました。
- 次回の剪定の為の資料、剪定技術の養成等継続していただきたいと思います。
- これにより、従来の剪定にも好影響を及ぼしているおはなしもうかがいましたが、みどり税での剪定技術がアップし、通常化し、どの剪定場所も良い景観となることを期待しています。
- 見学した時にみたのはケヤキやユリノキ、プラタナスだったかと思いますが、交通路として見通しが良いようにきちんと整備されていて、過去の写真と見比べるとすっきりして良いです。
- 街路樹を広範囲に渡って維持管理するのは、古くなると倒木の危険もありなかなか目の行き届かない場所もありたいへんな仕事だと思います。
- 特にビルが建ち並ぶまちなかの緑の確保は非常に難しいと考えます。ビル街での緑や花の確保や育成は、現代社会に於いて非常に困難な場所だと思いますが、街路樹の姿勢の取り方などを考えた取組は非常に良い方法と思いました。技術や生活の概念、社会的な生活空間の世界的考えの推移・変化がありますが、緑や花の精神的作用の影響を考えると、ビル街、繁華街、官庁街などの中心的社会的空間に緑や花の空間をいかに増やしていくか、横浜市が世界に誇れる都市になるためには、最も重要な要因の一つであると考えます。

(ウ) 森の多様な機能に着目した森づくりの現場を調査(今井・境木市民の森)

保土ヶ谷区南部に位置する今井・境木市民の森を視察しました。



概要、維持管理方法の説明



今井・境木市民の森

<委員の感想や主な意見>

- 今井町と境木町にかかる丘陵地のこの市民の森は、市民が憩える広場もあり、見晴台からは富士山もみえました。オープン間もないこの森は、近隣の自治会町内会の協力を得て愛護会が設立されたとのこと。良好な環境が維持されていくことでしょう。
- 公園と隣接しているため、一体的な空間が形成されていて市民にとってはグリーンスペースが広く存在していて良好な場になっていると思います。一方で、利用者目線からは両者の相違はやや困惑しないかと不安もあります。
- 道路一本を挟んで、公園と市民の森で管理が異なり利用時間や条件も異なるというのも市民にとってはやや難しいですね。
- ふわふわにチップを敷き詰め、歩きやすい散歩道です。数年後に野草が茂ってくると落ち着いた見晴らし台になるのではないのでしょうか。楽しみです。
- 景色を見ながら、登山をしている様な市民の森でした。高台からの眺めも良く、森を訪れた市民の皆様も喜ばれる事と思いました。
- 愛護会の皆様も組織的に活動されているとの事、喜ばしいと思いました。
- インターチェンジ下に緑が残ってよかった。公園とセットになることで、使いやすと思う。
- これから市民、とくに子どもたちに親しまれる催しなどが行われるとよい。
- 新規にできた市民の森で、公園との隣接が特徴でしたが、それぞれの法律での維持管理に差があるということでした。
- この森では、公園のトイレを利用できる点では良かったと思います。
- 市民の森はトイレがあるところが少ないのは法規制からかと思いますが、市民の利用、管理維持者の活動を推進するためにも設置が望まれます。
- 今年の4月にできたあたらしい市民の森ということですが、これから市民の方々の憩いの場となっていくことでしょう。愛護会や自治会などでイベントなどを行うなど、積極的にこの場所を活用していければ、利用者も増えてよいと思います。

- 展望広場は富士山が見えてとてもよいのですが、ゴルフ打ちっ放しのネットが景観を邪魔して少し残念です。
- 非常に良い場所で又整備されていたと考えます。管理・運営は良いように思いますが、市民への周知・PRをもっと工夫して頂き、市民の利用度を高めて行けたらと思いました。

(E) 園児・児童が農家に指導を受けながら農体験する取組(本宿農園)

旭区若葉台環境学習農園の現場を見学しました。隣接する幼稚園の園長であり農家の方から、普段活動されている農園で説明を受けたほか、写真を交えて活動内容について説明を受けました。



環境学習農園の視察



写真による活動の説明

<委員の感想や主な意見>

- 園長先生の話では、「園児の様子を見ると収穫体験のみよりは、種まきから収穫まで体験できると喜びも増す。収穫された野菜は園児宅に持ち帰り食べてもらっている。自然と食育につながる。」とのことでした。この取組は、学習効果も大きいことが分かります。幼稚園のとなりが農園と恵まれた環境ですが、園長先生と職員の熱意、連作の回避や追肥など農家さんのサポートで良好な環境学習農園が実現できていることが分かりました。
- よく整備されている農園だと感心しました。幼稚園からの距離が近いので、日常的に子どもたちが農作業に関わることができるものと思います。「食育」とは少し異なる「農育」の姿を見せていただいたように思います。
- 園児 80 名、3歳から5歳と言う何にでも興味を持ち、野菜に触り、やってみたい子ども達の安全に気をつけながらいろいろ経験をさせる為に頑張っている園長先生に頭が下がります。子ども達は幸せです。
- 体験農園として子ども達が土にふれ、野菜に触る等して収穫の喜びなど、食育として情操教育として、将来大人になっても忘れぬ思い出になる事と思います。  
みどりアップ事業としても、今後も次世代を担う子ども達の為にも応援出来たら良いと思いました。

- 園に隣接していることが良い。小学校の学習では一学期に数回、訪れるだけになってしまふのに比べて、作物が育つ過程がわかる。
- 雑草とりをはじめ、農園の管理には大きな労力がかかっていると思う。ボランティアなど、多くの人に関わるとよいと思う。
- 園長先生はじめ、職員の方が熱心に手入れをされ、子どもたちへ自由な形で種まきから見守り、また収穫にまで折々に時間を決めずに触れあわせているところが素晴らしいと思いました。  
農家の方にも応援をお願いしているとのことでしたが、園長先生のご要望が適切な施肥等について指導と伺いました。維持管理者へのサポートも声を聞き、配慮する必要があると思いました。
- 園児が収穫した野菜を持って帰って家で食べられるということですが、自分の手で収穫した野菜はより美味しく、野菜を食べるきっかけにもなりとてもいい食育になっていると思います。
- 「市民が利用できる農園の仕組み」が様々なケースがあることを知りましたが、それぞれのニーズに合わせて、うまく利用できると思います。
- 多くの面で、幼少期からの教育に関して緑や花、農産物等に触れ見聞きして行く事は大変大事なことと思います。小学校等でも実施していますが、多くの教育現場等で色々な取組を行っていくことは大事だと思います。



## 4 施策ごとの評価・提案

市民推進会議では、横浜みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑や花をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、横浜みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、横浜みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

### ◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組



## ◆各計画の柱のハイライト

2022年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

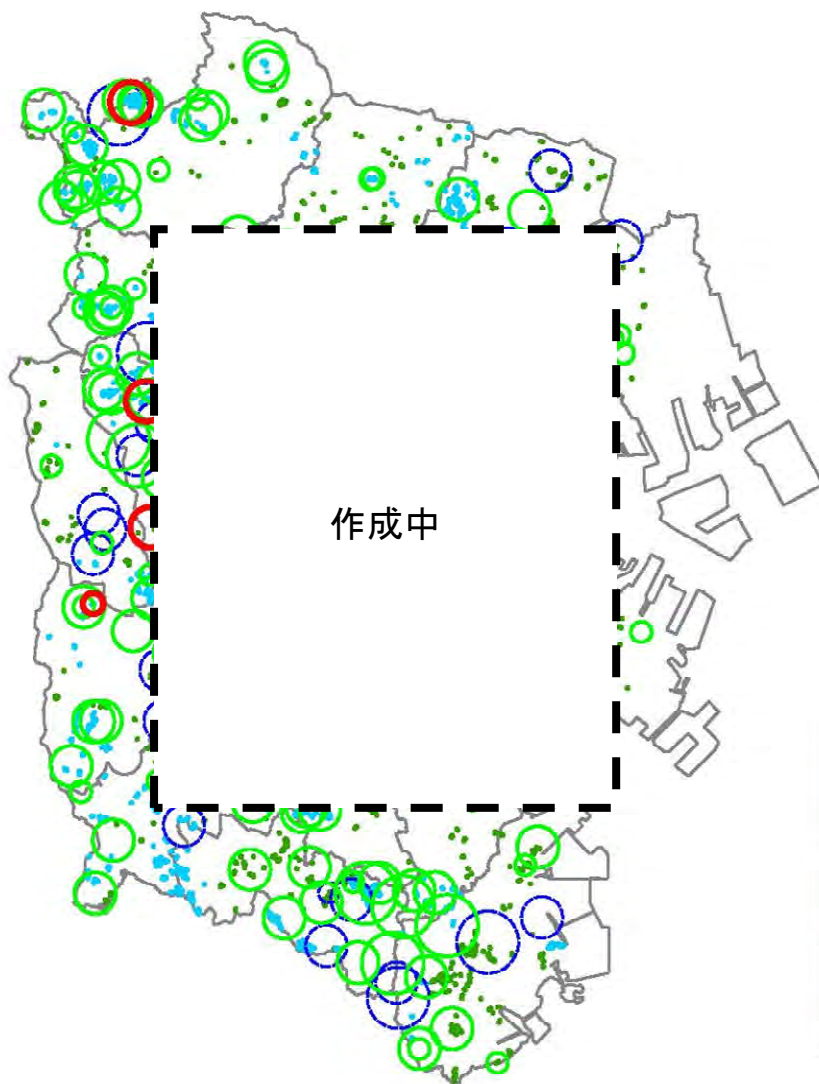


### 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

#### 緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009年度から2021年度の13年間で約〇〇〇ha、2022年度は〇〇〇ha指定されました。

<緑地保全制度による指定の状況>



#### <凡例>

都市緑地法、首都圏近郊緑地保全法に基づく指定地区 (特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区)			
■2008年度以前指定地区			
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	
■2009～2020年度指定地区			
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	ふとりアープ 制度の活用
■2021年度指定地区			
1ha	1ha以上 10ha未満	10ha以上	本報告書で 評価対象と なる実績
市の条例に基づく指定地区			
緑地保存地区 (市街化区域の身近な樹林地を保全する制度)			
源流の森保存地区 (市街化調整区域の良好な樹林地を保全する制度)			

2023年3月末現在



## 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

### 農園の開設が進んでいます

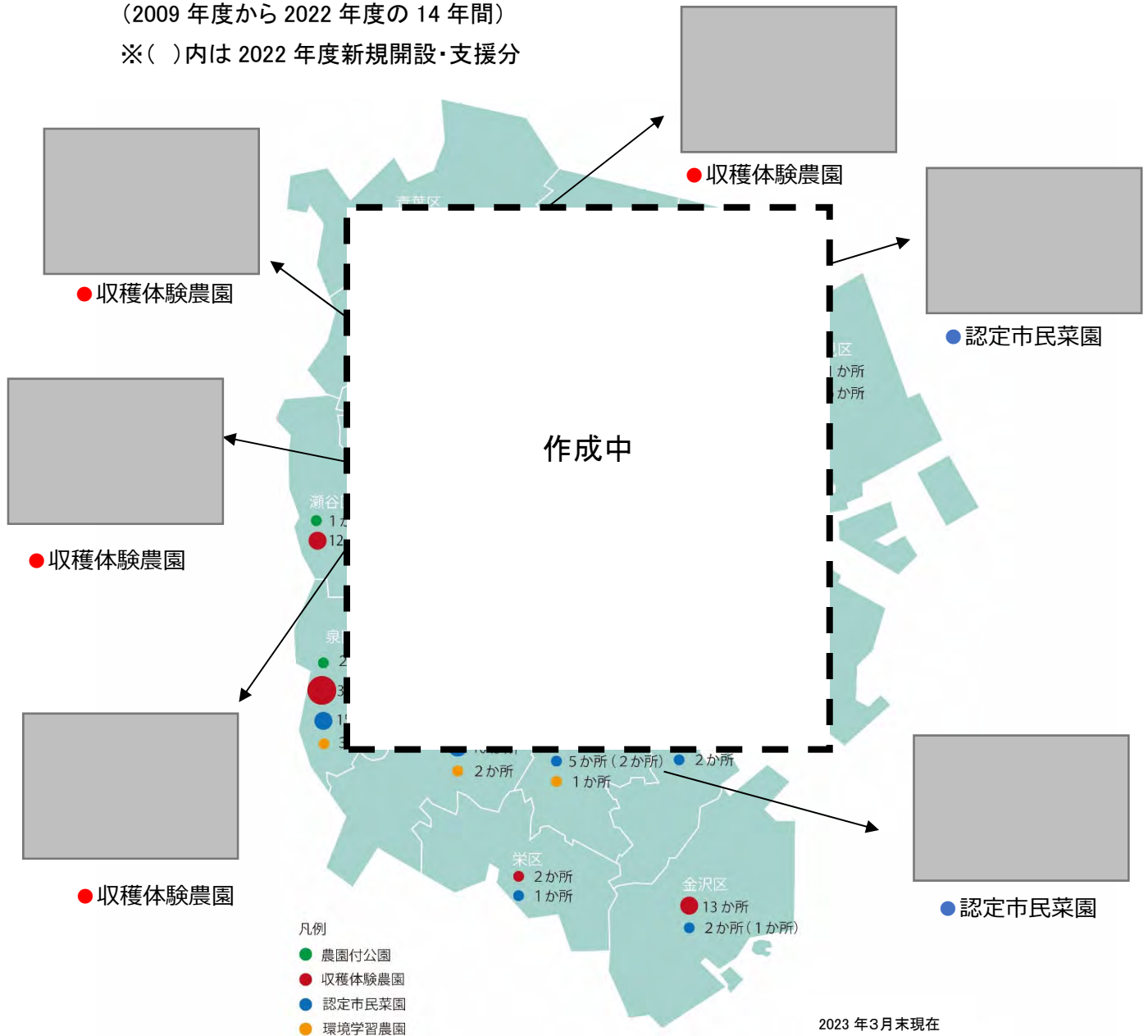
野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



### <農園の開設状況>

(2009年度から2022年度の14年間)

※( )内は2022年度新規開設・支援分







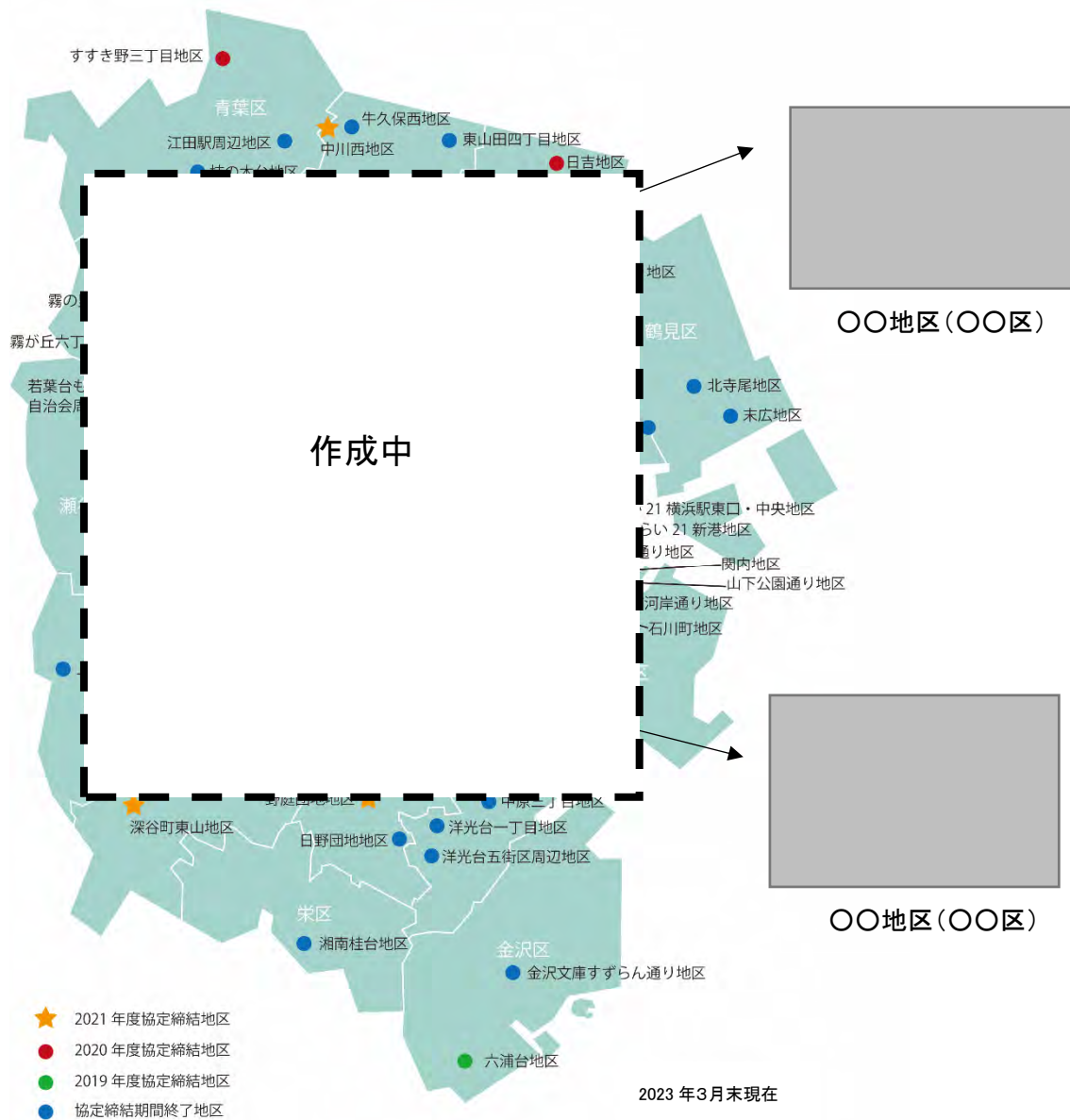
### 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

#### 緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009 年度から 2021 年度の 13 年間で市内 55 地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでおり、2022 年度は新たに〇地区で緑化の取組が進みました。



#### <地域緑のまちづくり実施地区一覧>



※横浜みどりアップ計画の詳細な実績については、「4か年(2019 年度～2022 年度)の事業・取組の評価・検証」をご覧ください。

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midoriup/jigyoku\\_houkoku.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midoriup/jigyoku_houkoku.html)

## ◆評価・提案の概要

「計画の柱1:市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、〇〇。

「計画の柱2:市民が身近に農を感じる場をつくる」については、〇〇。

「計画の柱3:市民が実感できる緑や花をつくる」については、〇〇。

「効果的な広報の展開」については、〇〇。

## (1) 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

### 施策1 樹林地の確実な保全の推進

#### 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

みどり税

##### ●事業概要(計画書から抜粋)

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援する必要があります。そこで、緑地保全制度に基づく指定により土地所有者へ優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

##### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り				
緑地保全制度による新規指定	60ha	推進中		300ha
土地所有者の不測の事態等による土地の買取り	(想定)22.9ha			(想定)113ha
保全した樹林地の整備	推進			推進

2022年度の写真に更新します。

特別緑地保全地区に新規指定された緑地  
(旭区中希望が丘特別緑地保全地区)

緑地保全制度により買入れた緑地  
(泉区和泉町早稲田特別緑地保全地区)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局緑地保全推進課)

- みどりアップ計画の第3期に入り、制度指定のメリットを土地所有者の皆様にお伝えしながら、さらなる樹林地指定に取り組めました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止等の影響もあり、指定面積は、2019年度の47.2haに対し、2020年度28.9ha、2021年度31.9ha、3か年合計では108haと目標を下回る結果となりました。また、3年間に新規指定した緑地(がけ所あり)の面積は0.61haと、前期みどりアップ計画期間(2014～2018年度)の0.72haに比べ、小規模化しています。  
**2022年度のコメントに更新します。**
- 都市計画により永続的に緑地を保全する特別緑地保全地区(近郊緑地特別緑地保全地区を含む)は、3年間で新規に9か所を指定し、20か所を拡張しました。
- 一方、樹林地の買取りが進み市の管理地が増えるなか、特別緑地保全地区等の新たな指定にあたっては、傾斜地など地形の状況や接道などの周辺状況を踏まえ、適切な整備や維持管理が行える区域とすることが必要です。区域設定の調整や課題の検討には時間を要しますが、今後もまとまりのある貴重な樹林地を保全するため、粘り強く事業を進めていきます。

#### ◆施策1についての評価・提案

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

## ● 施策2 良好な森を育成する取組の推進

### 事業② 良好な森の育成

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。

また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

#### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進				
森の維持管理	推進	推進中		推進
取組(2) 指定した樹林地における維持管理の支援				
維持管理の助成	100件	推進中		500件

2022年度の写真に更新します。計画検討会の様子

保全管理計画の策定（旭区鶴ヶ峰ふれあいの樹林）

（泉区 古橋市民の森）

（緑区）

作業前      作業後

森づくりガイドライン等を活用した維持管理      維持管理の助成

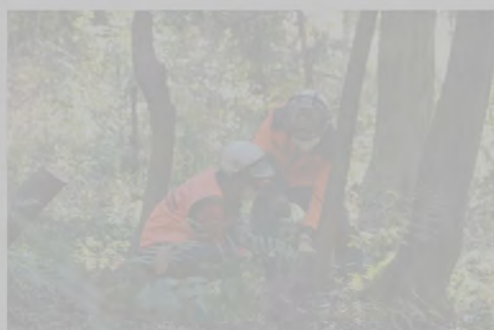


●事業概要(計画書から抜粋)

市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森づくりを担う人材の育成				
森づくりを担う人材の育成	推進	推進中		推進
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信	4回			20回
取組(2) 森づくり活動団体への支援				
森づくり活動団体への支援	30団体	推進中		150団体
森づくり活動団体への専門家派遣	4回			20回
チップターの貸出し	推進			推進

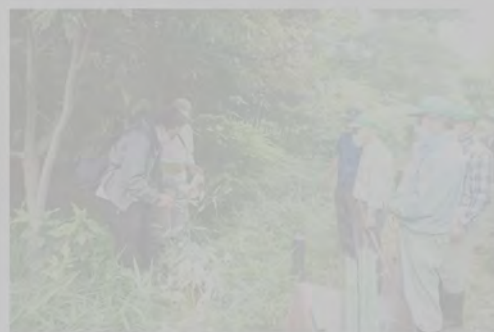


森づくりを担う人材育成  
森づくり体験会(継続編)の様子



森づくりを担う人材育成  
森づくり体験会(親子編)の様子

(上川井市民の森) (2022年度の写真に更新します。)



森づくりを担う人材育成  
アドバイザー派遣  
(中田宮の台市民の森愛護会)



#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 樹林地管理においては、特に樹林地外周部の斜面で、災害予防を目的とした剪定や伐採などを行いました。その意義や効果については、多くの方々にご理解をいただけるようになってきたと感じています。市民の森やまとまった樹林のある公園等において保全管理計画の策定が進み、計画的な管理についても、愛護会とも連携しながら進め、多様な環境が形成。2022年度コメントに更新します。の斜面では豪雨時の土砂流出が抑制されました。今後も作業成果の検証を行いながら、生物多様性や安全性など森の機能を高める管理を着実に進めていきたいと考えています。
- 樹林地維持管理助成事業は、2020年度に比べると申請件数はやや減ったものの、傾向としては依然増加傾向にあります。今後も台風などの災害から樹林地を守っていくための一助として、土地所有者の方にこの助成の活用を呼びかけ、計画的な維持管理をしていただくことで、樹林地における防災・減災を図っていききたいと考えています。
- 「よこはまの森ニュースレター」では研修や支援制度の紹介、愛護会や森づくり活動団体の活動紹介のほか、森づくり活動に必要な安全管理の知識や、森づくり体験会を実施した樹林地の林床にどんな変化がもたらされたのかなどの情報提供を行っています。森づくり活動団体やボランティアの皆さんの活動内容や楽しみの幅が広がるような記事を掲載していきたいと考えています。

#### ◆施策2についての評価・提案

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

### 施策3 森と市民をつなげる取組の推進

#### 事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

横浜の森について理解を深め、さらには行動につなげるため、森に関するイベントや講座の開催により、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、市内5か所にあるウェルカムセンターの活用などにより、情報発信等に取り組みます。

#### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 森の楽しみづくり				
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施	36回	推進中		180回
取組(2) 森に関する情報発信				
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	10回	推進中		50回

2022年度  
～森の楽しみづくり イベントの内容～

- ・よこはま森の楽校
- ・森の中のプレイパーク(中止)
- ・クラフト教室
- ・自然教室(昆虫観察会) など



よこはま森の楽校の様子  
(緑区東洋英和女学院大学)

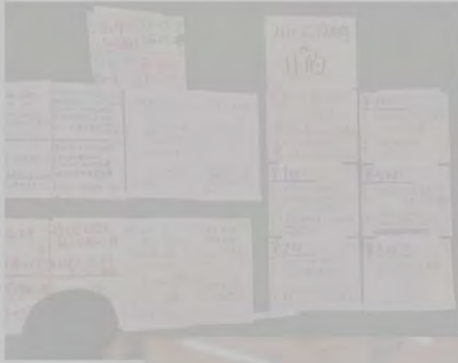
2022年度の写真に更新します。



よこはま森の楽校の様子(Zoomにて開催・送付したゲーム)  
(都筑区東京都市大学北村研究室)







### インタープリター養成講座 について

市内に残るみどりの大切さを広く知っていただくため、横浜の森の魅力や役割を、単なる情報提供だけではなく、直接体験教材を通して、効果的に伝える技術や知識を学ぶ講座です。

2022年度の写真に更新します。



インタープリター養成講座の様子



ウェルカムセンターイベント  
「ヤゴ観察会」の様子  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)



ウェルカムセンターイベント  
「匂の里山探訪」の様子  
(緑区にいはる里山交流センター)

**市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)**

- 森の楽しみづくりとして、市内各地にある樹林地や緑を活用した自然観察イベント等を実施しました。森の楽校のキャンパスイベントについては、感染症の状況に応じて、対面による体験型とオンラインによる WEB 参加型の両方で各大学が実施しました。市内小学生を対象に図書館及び公園で実施したイベント(森の中のプレイパーク)は、感染状況が悪化したことから、令和3年度は実施することができませんでした。市民の森やふれあいの樹林などの自然観察や散策のできる樹林地が市内には数多くあることを紹介、樹林地で過ごす時間の魅力を感じる機会を提供しました。
- コロナ禍での生活様式の変化により、樹林地に対する関心は高まっており、これまで関心の無かった方にも樹林地を訪れてもらう機会が増えました。この機会を捉えて、森の楽しみ方を伝え、「横浜の森ファン」を増やすことで、利用マナーや、みどりアップ計画への理解や協力を得ていきたいと考えています。
- しかしながら、感染症の拡大状況によっては、準備を進めたイベントであっても中止の判断をせざるを得ない場面もあり、3年前とはイベントを取り巻く状況は様変わりしています。森の魅力については、現場での体験があってこそ実感できると思いますが、体験が無くても伝わる、響く情報発信が何かを考えていかなければならないと思います。

2022年度のコメントに更新します。

**◆施策3についての評価・提案**

「森を育む」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント

望月 正光

## (2) 計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

### 施策1 農に親しむ取組の推進

#### 事業① 良好な農景観の保全

みどり税

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくりだす「農」の景観は多様です。農業専用地区に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などにより農地を維持する取組を支援します。

#### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標	
	目標	実績			
<b>取組(1) 水田の保全</b>					
水田保全面積	125ha	推進中		125ha	
水源・水路の確保	2か所			10か所	
<b>取組(2) 特定農業用施設保全契約の締結</b>					
特定農業用施設保全契約の締結	制度運用			制度運用	
<b>取組(3) 農景観を良好に維持する活動の支援</b>					
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持面積		705ha		730ha
	農地縁辺部への植栽		11件		55件
	井戸の改修		1地区		5地区
	土砂流出防止対策		3件		15件
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策		4ha		20ha
	たい肥化設備等の支援	5件		25件	
<b>取組(4) 多様な主体による農地の利用促進</b>					
遊休農地の復元支援	0.3ha			1.5ha	



保全された水田(戸塚区東俣野町)

水田の用水路の更新(青葉区恩田町)

2022年度の写真に更新します。

土砂流出防止対策を実施した農地  
(都筑区東方町)

まとまりのある農地への景観植物の植栽  
(緑区北八朔恵みの里)



●事業概要(計画書から抜粋)

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を市内各地で進めます。

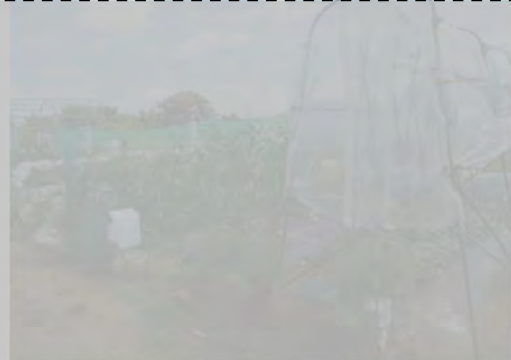
また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会の提供や、農家への援農活動を支援します。

●実績

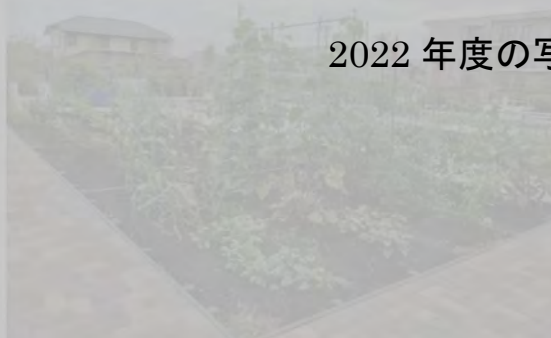
項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設</b>				
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	4ha	推進中	22.8ha	
うち 収穫体験農園の開設支援	1.5ha		(7.5ha)	
うち 市民農園の開設支援(栽培収穫体験ファーム・環境学習農園・認定市民菜園)	2.00ha		(10ha)	
うち 農園付公園の整備	0ha		(5.3ha)	
<b>取組(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進</b>				
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施	90回	推進中	450回	
市民農業大学講座の開催(1年次の講座回数)	20回		100回	
家族で学ぶ農体験講座の開催	6回		30回	



開設支援した収穫体験農園  
(戸塚区平戸町)



開設支援した認定市民菜園  
(青葉区田奈町)



開設した農園付公園(2019年度)  
(瀬谷区阿久和東二丁目)

2022年度の写真に更新します。





2022 年度の写真に更新します。

恵みの里の農体験教室  
(緑区北八潮町)

家族で学ぶ農体験講座  
(保土ヶ谷区環境活動支援センター)

**市担当者からのコメント(環境創造局農政推進課・みどりアップ推進課・環境活動支援センター)**

- 水田保全に関する事業では、保全期間10年が満了した土地所有者に更新手続きをお願いしていますが、高齢化が進み、10年後の耕作状況まで見通せないと更新を辞退される方が増えています。目標の達成に困難を感じています。一方、水稻を作付していながら申し出いただいていない土地所有者も少数ながらいらっしゃるため、個別に事業の趣旨を説明するなど粘り強く働きかけ、新規に1.1haを保全することができました。
- 市民農園の事業では、小中学校の児童が農家の指導により農作業を体験できる環境学習農園において、新型コロナウイルス感染症対策による学校の休校措置やイベントの人数制限対応などにより、園主から「児童への指導を例年通りに実施することができず苦勞している」などの意見や相談が数多く寄せられました。感染拡大防止対策なども工夫して取り入れながら、多くの学校等で体験が行われました。
- 農園付公園は、現在3か所の予定地において開園に向けて整備を進めています。2020年4月1日に公開した阿久和富士見小金台公園では、指定管理者による利用者向けの野菜の育て方指導や、協働農園を活用した収穫体験イベント等が開催されています。
- ふるさと村や恵みの里で実施を予定していた農体験イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年はその多くが中止されましたが、2021年度は感染症対策を取りながら、多くのイベントを開催することができました。
- コロナ禍の中、恵みの里が実施する収穫体験などのイベントに対して、例年を上回る申込みがあったことや、市民農園の利用に関する問合せの増加など、生活様式の変化に伴い、横浜の農業への関心や農体験のニーズが高まっていることを実感しています。
- 家族で学ぶ農体験講座では、小学生が家族と一緒に作物の植え付けから収穫までの様々な農作業を体験するなど、楽しみながら農と触れ合う機会を提供しました。2020年からは班分けや時間差での作業で密状態を防ぐなど感染症の対策を行いながら、種まきから収穫に至るまでの体験の取組を進めました。参加者からは「農業、自然への興味が増した」、「スーパーや食卓に並ぶ野菜を見て、学んだことについて家族で話すようになった」などの感想がありました。

2022 年度のコメントに更新します。

◆施策1についての評価・提案

「農を感じる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討



## 施策2 地産地消の推進

### 事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

身近に市内産農畜産物や加工品を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。

そこで、「横浜農場<sup>\*</sup>の展開」による地産地消を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PR活動を推進します。

※横浜農場:食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場と見立てた言葉

#### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1)	地産地消にふれる機会の拡大			
直売所・青空市等の支援	57件	推進中		285件
緑化用苗木の配布	25,000本			125,000本
情報誌などの発行	6回			30回



野菜の自動販売機(2022年度の写真に更新します。)



緑化用苗木の配布(中区)



はまふうどナビ第59号



## 事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

### ●事業概要(計画書から抜粋)

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図り、「農のプラットフォーム」を充実するとともに、農と市民・企業等が連携した「横浜農場の展開」を推進します。

### ●実績

項目		2022年度		4か年の実績	5か年の目標	
		目標	実績			
取組(1)	地産地消を広げる人材の育成					
	はまふうどコンシェルジュの活動支援等	30件	推進中		150件	
	地産地消ネットワーク交流会の開催	1回			5回	
取組(2)	市民や企業等との連携					
	市民や企業等との連携	10件			50件	
	ビジネス創出支援	4件		16件		
	学校給食での市内産農産物の一斉供給	推進		推進		
	料理コンクールの開催	1回		5回		

2022年度の写真に更新します。



はまふうどコンシェルジュ活動支援  
(マルシェの開催)



地産地消ネットワーク交流会の開催  
(食と農のフォーラム)



企業等との連携による地産地消の推進  
(横浜 FC ホームゲームにおける地産地消イベントの開催)



はま菜ちゃん料理コンクール  
入選作品レシピ集

#### 市担当者からのコメント(環境創造局農業振興課)

- 直売所等の支援として、自動販売機や冷蔵ショーケースの導入等に補助を行いました。また、市民ニーズに応えるため、感染症対策を取りながら、市内各地で青空市やマルシェを開催している団体等に PR 資材やアルコール消毒液等を配付しました。より多くの市民が身近に地産地消を暮らしの中に取り入れてもらえるよう、こうした青空市やマルシェを継続的に支援していくことが必要だと思います。
- 令和3年度は、横浜FCとの連携による横浜FCホームゲームにおける地産地消イベントの実施や、CDA合同会社※と連携した市庁舎北プラザでの地産地消キッチンカー継続出店など、新たな地産地消の取組を企業等との連携により実現することができました。その他、マルシェを開催 **2022 年度のコメントに更新します。**地産地消に関する相談・問合せが寄せられており、コロナ禍で市民生活に身近な「地産地消」への関心が高まっていることが感じられました。こうした企業等のニーズをとらえ、様々な主体と連携して、より多くの方に横浜で営まれている農の魅力を感じていただけるよう、取組を進めていきます。  
※CDA合同会社…関東圏のオフィス街やイベントなどに出店するキッチンカーグループ
- 地産地消ビジネス創出支援事業では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、講座をオンラインでも実施するなど、柔軟な対応により円滑に事業を進めることができました。また、事業開始にかかる初期費用の補助や専門家による相談対応により、中小企業等が、食育や6次産業化などにつながる新たな地産地消ビジネスに取り組みました。コロナによる経済的影響が長引く中、飲食業等の事業者が新たな事業に取り組む際に「地産地消」に注目するケースも増えているように感じています。

#### ◆施策2についての評価・提案

「農を感じる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

内海 宏



### (3) 計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

#### 施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進

##### 事業① まちなかでの緑の創出・育成

みどり税

##### ●事業概要(計画書から抜粋)

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、生物多様性の保全に寄与し、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑の創出・育成を推進します。

##### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
<b>取組(1) 公共施設・公有地での緑の創出・育成</b>				
緑の創出	7か所	推進中	36か所	
緑の維持管理	推進		推進	
<b>取組(2) 街路樹による良好な景観の創出・育成</b>				
並木の再生	2路線	推進中	10路線	
空き枿の補植	推進		推進	
良好な維持管理	18区で推進		18区で推進	
<b>取組(3) シンボリックな緑の創出・育成</b>				
公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理	推進	推進中	推進 (想定箇所:継続2か所、新規2か所)	
公開性のある緑空間の創出支援	推進		推進 (想定箇所:10か所)	
<b>取組(4) 建築緑化保全契約の締結</b>				
建築物緑化保全契約の締結	制度運用	推進中		制度運用
<b>取組(5) 名木古木の保存</b>				
名木古木の保存	推進	推進中		推進

2022 年度の写真に更新します。

公開性のある緑空間の創出支援  
(港南区)

名木古木の新規指定(都筑区)



公有地化によるシンボリックな緑の創出  
(神奈川区六角橋四丁目公園)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 街路樹における良好な維持管理では、対象の街路樹路線を選定し、樹木の目標樹形を決め、計画的な剪定を行うことで、限られた道路空間の中でも形が整った美しい並木を作る取り組みが進み、緑陰の確保や街中の景観の向上につながっています。
- 公有地化によるシンボリックな緑の創出では、1公園(六角橋四丁目公園)が開園しました。また、これまでに本事業で整備した緑化地では良好な木を育成するための、質の高い維持管理を行っています。これにより、多くの市民の目にふれる場所での貴重な緑の創出・育成が進んでいます。引き続き、緑の少ない市街地においてまとまりのある緑化用地を確保していく必要があります。
- 名木古木の保存事業では、82本の樹木に対して維持管理助成を行い、樹木所有者の負担を軽減しました。また、今年度は新たに11本の樹木を名木古木に指定し、保存されることで都市の美観風致の維持に寄与しました。利用者からは「古木の維持管理には費用がかかり、助成金があることで維持を継続できている」という声もあり、需要も高いため、助成を必要とする利用者に偏りなく支援できるよう、樹木診断や維持管理等に係る助成金について、助成メニューの適切な活用を促進することが重要です。

2022 年度のコメントに更新します。



◆施策1についての評価・提案

「緑をつくる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討



## 施策2 緑や花に親しむ取組の推進

### 事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

みどり税

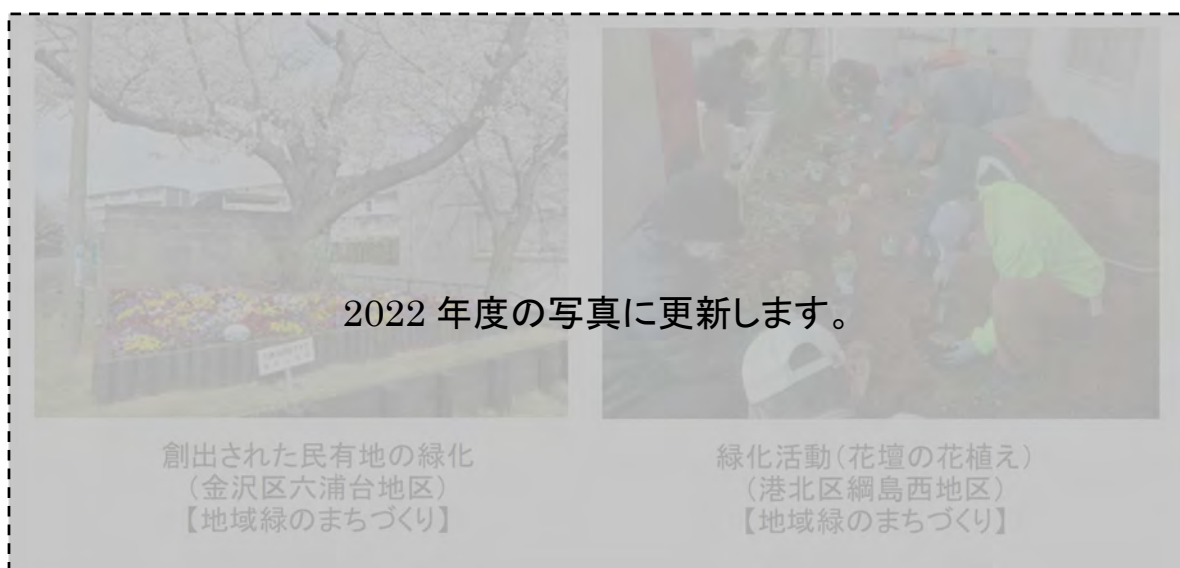
#### ●事業概要(計画書から抜粋)

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と連携した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民や企業を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、第33回全国都市緑化よこはまフェアなど、これまで多くの市民や企業の協力で展開された各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

#### ●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 地域緑のまちづくり				
地域緑のまちづくり	新規6地区	推進中		新規30地区
取組(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり				
緑や花を身近に感じる各区の取組	18区で推進	推進中		18区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組	推進			推進
取組(3) 人生記念樹の配布				
人生記念樹の配布	8,000本			40,000本配布



●事業概要(計画書から抜粋)

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多く時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

●実績

項目	2022 年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成				
緑の創出	20 か所	推進中	100 か所	
緑の維持管理	推進		推進	



園庭の芝生化  
(青葉区荏田北保育園)

保育園でのビオトープ整備  
(港北区港北保育園)

校庭芝生の維持管理  
(青葉区鉄小学校)

校庭・園庭芝生の育て方講座  
(保土ヶ谷区保土ヶ谷公園)

●事業概要(計画書から抜粋)

第33回全国都市緑化よこはまフェアには、多くの人が訪れ、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しました。多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、これらの取組を継承し、公共空間を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力や回遊性の向上・賑わいづくりにつなげます。

●実績

項目	2022年度		4か年の実績	5か年の目標
	目標	実績		
取組(1) 都心臨海部等の緑花※による魅力ある空間づくり				
緑花による空間づくりと維持管理	推進	集計中		推進

※緑花(りよくか)とは・・・樹木や芝生などの「緑」と四季折々の彩(いろどり)としての「花」を組み合わせて植栽することで、街の魅力形成や賑わいづくりを行うものです。



2022年度の写真に更新します。

緑花の維持管理  
(中区山下公園)

緑花の維持管理  
(中区新港中央広場)

花の名所づくり  
(港南区久良岐公園)

主要な駅前での緑化  
(港北区新横浜周辺)

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- 地域緑のまちづくり事業では、新型コロナウイルス感染症に対応するため、地域団体の活動が難しい状況を鑑みて、提案団体への個別事業説明を実施しました。提案団体には、地域緑化計画策定に向けた支援を行い、2021年度は7団体が選考を通過しました。市民生活に身近な多くの地区で、こうした緑のまちづくりの機運が高まっていると感じています。また、協定締結期間が終了する団体からも、活動をきっかけとして地域に緑や花が増えたという喜びの声や、まちなかの緑化を通じてこれまで交流のなかった高齢者と子どもなど、地域での新しいつながりが生まれたなどの声が寄せられました。一方で、協定期間終了後に助成がなくなることで、活動規模が縮小する団体もあるため、外郭団体の事業も含め、活用可能な支援を案内し、つないでいくことも重要です。
- **2022年度のコメントに更新します。**子どもを育む空間での緑の創出・育成では、保育園や小学校等で園庭・校庭の芝生化を進めています。青々とした芝生に寝転がったり、側転などの運動をしたり、子どもたちが芝生ならではの過ごし方をしています。またビオトープや花壇づくりを通して、生きものに触れる機会が増えています。学校では生活科や総合学習などでも効果的に活用されています。
- 緑花による空間づくりにより、山下公園や港の見える丘公園、日本大通りなど、都心臨海部等で、緑や花による街の魅力や賑わいづくりを進めています。また都心臨海部に加え里山ガーデンなど、ガーデンネックレス横浜として市内外へ発信し多くの市民や来街者に楽しんでいただくことができました。18区での取組などと合わせて、ガーデンシティ横浜の魅力を伝える取組を続けています。

#### ◆施策2についての評価・提案

「緑をつくる」施策を検討する部会で評価・提案内容を検討



「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

.....

池邊 このみ



## (4)効果的な広報の展開

### 事業① 市民の理解を広げる広報の展開

#### ●事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

#### ●実績

目標	2022 年度実績	4か年実績
広報よこはま等の広報紙への記事掲載	推進中	
実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧		
広告、動画等の各種メディアを活用したPR		

ホームページの充実	<div style="border: 1px dashed black; background-color: #cccccc; padding: 50px;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">推進中</p> </div>
メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信	
緑に関するイベントでのPR	
取組に基づいて実施したことを示す現地表示(プレート)	

※市民推進会議による広報企画としては、広報誌「Yokohama みどリアップ Action」第7号、第8号及び「森づくり体験会」の案内チラシを発行(詳細は●頁「③広報・見える化部会」参照)



広報よこはまへの取組実績の記事掲載  
(市版 10月号)



こどもタウンニュース  
(令和3年 11月発行)



PR動画を活用した広報  
(横浜市役所アトリウム)



市営バス車内での動画放映

2022年度の写真に更新します。



横浜みどりアップ葉っぱーが解説する  
計画紹介アニメーション



農と緑の感謝デー(令和3年 11月)



公園花壇での現地表示プレートの設置  
(港北区小机町第二公園)

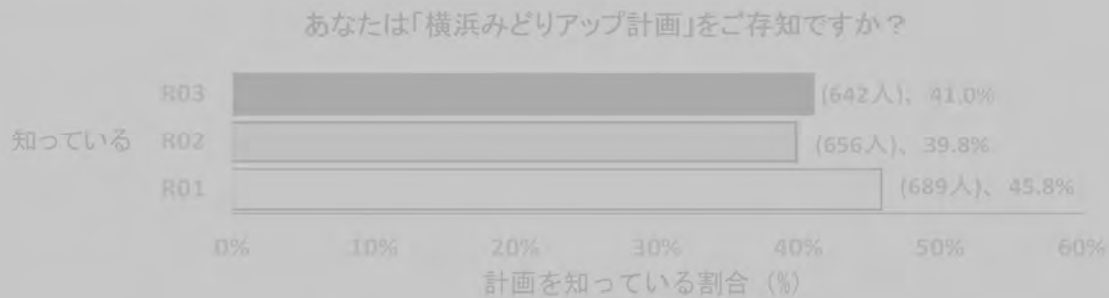


ガーデンネックレス横浜と連携した現地表示板  
(里山ガーデン)

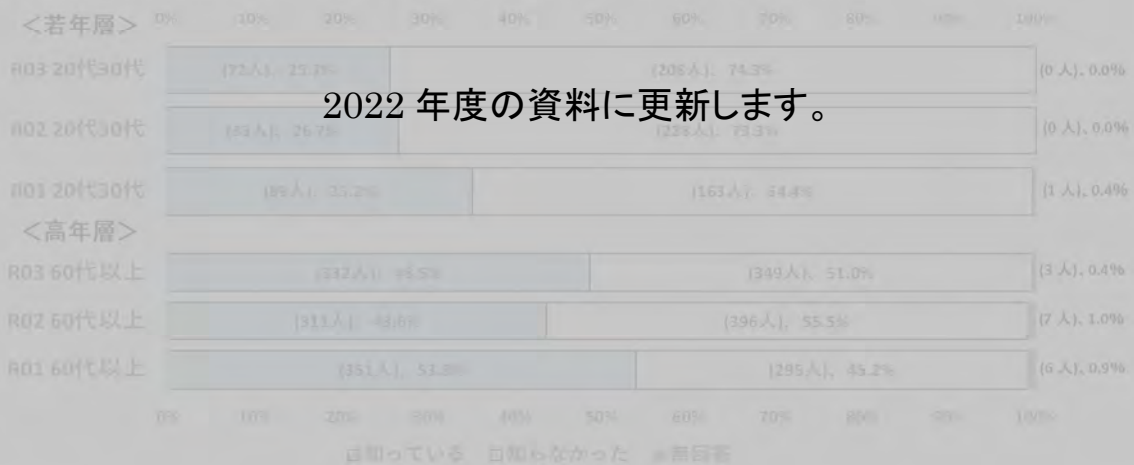
Q.「横浜みどリアップ計画」をご存知ですか？

計画を知っている割合は40%前後で推移。

2021年度は、41.0%が知っていると回答



計画を知っている割合は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。



※「知っている」は、「取組内容を知っている」、「あることを知っている」、「名称を見たことや聞いたことがある」の計

令和3年度「横浜みどリアップ計画認知度調査」の調査結果より

#### 市担当者からのコメント(環境創造局みどリアップ推進課)

- 横浜みどリアップ計画の実績については、リーフレットを作成し自治会・町内会へ説明を行うほか、広報よこはま市版に記事掲載を行い、広く市民へ実績が伝わるよう努めました。
- また、マスコットキャラクターが計画を解説するアニメーション動画を制作し、YouTubeへの掲載や、緑や花が2022年度のコメントに更新します。市役所アトリウムで放映したほか、18区役所や庁舎内のデジタルサイネージ、電車やバスの車内広告で放映を行い、映像による横浜みどリアップ計画の取組成果をPRしました。
- 公園愛護会の皆さんが植えた球根ミックス花壇に市内約1,300枚の現地表示プレートを設置するとともに、横浜みどリアップ計画の取組がより多くの方の目に留まるよう、SNSやホームページなどを強化していくなど、多様な手法による広報を進めています。



◆施策についての評価・提案

広報・見える化部会で評価・提案内容を検討

広報・見える化部会 部会長コメント

.....

高田 房枝



## 5 市民推進会議委員名簿

### 横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿(2022年10月時点)

(50音順・敬称略)

役職	氏名	区分	備考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
副座長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	奥井 奈都美	公募市民	
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	国吉 純	公募市民	
座長	進士 五十八	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	奥井 奈都美	公募市民	
	関根 宏一	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	高橋 秀忠	公募市民	
部会長	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
部会長	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	小野 英明	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	野渡 リツ子	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
	村松 晶子	公募市民	

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究所 教授
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	今関 美津枝	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	国吉 純	公募市民	
	高田 房枝	公募市民	

## 広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	奥井 奈都美	公募市民	
	国吉 純	公募市民	
部会長	高田 房枝	公募市民	
	高橋 秀忠	公募市民	
	村松 晶子	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

## 6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員の皆さまからもコメントをいただきました。

委員ごとにコメントをいただきます。



## 7 市民推進会議広報誌

### 「YokohamaみどりアップAction」

- 第1号（2019年11月発行）  
市民の森愛護会  
（緑区 鴨居原市民の森）
- 第2号（2020年2月発行）  
あぐりツアー  
（泉区 横山四季彩園）  
（瀬谷区 相澤良牧場/オーガスタミルクファーム）  
（瀬谷区 グリーンファーム あい菜フローラ店）
- 第3号（2021年2月発行）  
オープンガーデン  
（港北区 園芸ボランティアみらい）
- 第4号（2021年3月発行）  
市民の森  
（緑区 ながつたしゆく長津田宿市民の森）
- 第5号（2021年11月発行）  
農園付公園  
（泉区 岡津町ふれあい公園）
- 第6号（2022年2月発行）  
地域緑のまちづくり事業  
（西区 みなとみらい21新港地区運河パーク花時計）
- 第7号（2022年10月発行）  
市民農業大学講座  
（保土ヶ谷区 環境活動支援センター）
- 第8号（2023年2月発行）  
森づくりボランティア入門講座  
（緑区 にいはる里山交流センター/新治市民の森）

### 「森づくり体験会」の案内チラシ（2021年11月発行）

# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.1  
2019.11

次世代へつなぐ  
鴨居原市民の森



横浜みどりアップ計画



## Special Interview

# 15周年を迎えてますます元気に!

緑区にある鴨居原市民の森。約2haのこの森は、竹林が広がる北地区とクヌギやコナラの雑木林からなる南地区で構成されています。森の歴史や魅力を知り尽くす、鴨居原市民の“森の長”にお話を伺いました。

文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



### ごみの山から、宝の森に?

その昔、ここは不法投棄された自動車の古タイヤや粗大ごみの山でした。それをどうにか「みんなで綺麗な森にしたい!」と鴨居第八地区自治会長が声をあげ、自治会役員を中心とした有志のメンバーが集まり、森の再生が始まりました。そこで結成されたのが「鴨居原ふれあいの森愛護会」(後の「鴨居原市民の森愛護会」)です。平成16年に愛護会が発足し、翌17年に市民の森が開園してからずっと、地域の皆さんに愛される森を目指して、15年間様々な活動を行ってきました。

### 親子で参加したくなる楽しいイベント

“子どもたちが故郷ふるさととを感じる森づくり”をスローガンに、春の竹の子掘りや夏のソーメン流しなど、親子で参加できるイベントを季節ごとにたくさん行っています。

森からの贈り物に触れて、そして食べて美味しい! イベントには、地域の住民から区境を越えて隣町の人たちまで、毎回たくさんの参加者で賑わっています。「この森が20年、30年と

続いてほしい」と同愛護会の菅原会長。みどりアップ計画で保全した森を、地域の人がみんなで大事に育てていて、森の恵みが子どもたちに受け継がれていることを感じました。

### セカンドライフは愛護会で



活動の中核メンバーは50人程度。それも88歳を筆頭に、70歳以上が約9割を占めています。「月2回の定例活動と、それ以外にも市民の森に隣接する民有地の『ふれあい農園』で作業もしており、けっこう忙しいが、『できる事をできるだけやる。無理はしない』がモットー」「午前中の短時間作業を心掛け、楽しんでいる」と阿部名誉会長と菅原会長。力仕事の多い森の作業は男性が中心ですが、農園の作業は主に女性の得意分野。それがきっかけで、女性会員が増え、今ではメンバーの4割が女性なのだとか。農園で採れた野菜をみんなで山分けしていただくのも、楽しみの一つですね。森で体を動かし、土に触れ、仲間とお喋りを楽しみながらやる、これらが、愛護会の皆さんが元気でいられる秘訣なのでしょう。活動に参加したい!と思えるような、幅広い世代の笑顔と活気あふれる森でした。



## Best Point

# ここが魅力! 鴨居原市民の森

多様な生き物に出会え、季節の移ろいを実感できる市民の森。イベントには多くの世代の人が集い、笑顔があふれます。そんな鴨居原市民の森の南地区をご紹介します。



### 3 鎌倉古道沿いの「ハンカチの木広場」

入り口では、花壇と開園記念に植えられたハンカチの木、キンモクセイ、シダレザクラなどが、訪れた皆さんを迎えます。



### 1 樹木に囲まれた「ふれあい広場」

竹の間伐材を利用した「ソーメン流し」などのイベントを開催し、地域のたくさんの人との“ふれあい”を感じる広場です。



### 2 市民の森と共存共栄「ふれあい農園」

市民の森に隣接する民有地で、愛護会が地主さんの協力を得ながら農園を開始。野菜を作り、焼き芋大会などで振る舞っています。



ふれあい農園を始めたら女性の会員が増えました!

鴨居原市民の森愛護会

### 市民の森ってなに?

横浜市独自の、緑地を保全する制度の一つで、緑を守り育てるとともに、山林所有者の方々のご協力により、市民の憩いの場として利用されています。

### 市民の森愛護会ってなに?

市民の森の日常的な維持管理をされている地域住民の団体です。平成31年4月までに開園した市民の森39か所で、31の愛護会が活動しています。



### ここにみどり税

横浜みどりマップ 葉っぱ

みどりアップ計画では市民の森などの制度によって緑の保全を推進中。市が森を買い取る時や愛護会の維持管理作業にはみどり税を使っています。



# 市民の森に 遊びに行こう!

中面でご紹介した鴨居原市民の森以外にも、市内では平成31年4月1日現在39箇所の市民の森が公開されています。

まずは、近くの森に散歩に行ってみませんか？

## 市民の森利用ルール

- 利用時間は日の出から日の入りまで。
- 植物などを持ち帰ったり、持ち込んではいけません。
- ごみは持ち帰りましょう。

## 森のガイドマップ 無料配布中!

各市民の森のガイドマップを市民情報センター(市庁舎1階)、各区役所広報相談係、環境創造局みどりアップ推進課で無料配布しています。



ダウンロードは  
こちらから!



## 私たちが「みどりアップACTION」をつくっています!

2019年度から横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会の委員は新メンバーとなりました。横浜のみどりの現状を市民の視点で捉え、さらに問題点や解決方法を取材し、みどりを点から線、面へと繋ぐために、誰もが行動できる様々なきっかけ、情報を皆さまにお伝えしていきます。

(写真左から国吉、高橋、村松、望月、高田、奥井)



## 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

## YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



## ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは  
こちら!



## YOKOHAMAみどりアップACTION 第1号

(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第36号)令和元年11月発行  
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会  
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

## 問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490  
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp





# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.2  
2020.2

笑顔あふれる、  
農との出会い。



撮影：泉区和泉町







1. 2. 農家の横山さんがお芋の掘り方を説明 3. 焼き芋を試食 4. 参加者全員で集合写真 5. 親子で芋掘り 6. 牛舎の乳牛 7. 生まれたての子牛をのぞき込む子どもたち

# 横浜で農にふれる、 おいしさを知る「あぐりツアー」



『みなと』のイメージが強い横浜ですが、実は農地がたくさんあり、農産物もたくさん生産されています。そんな横浜の姿を知り、採れたてのおいしさを味わえるイベント「あぐりツアー（横浜農業探検隊）」に参加しました。

文：村松晶子、国吉純

## 畑で芋掘り体験



今回のツアーは、サツマイモの収穫・牧場の見学・直売所での買い物という内容で、10月に泉区・瀬谷区で行われました。まず横山四季彩園の見晴らしの良い広い畑で芋掘り。ここは横浜市独自の制度「農業専用地区」の畑です。農園主の横山拓巳さんは四代目の若い専業農家さん。ハワイに2年住んで日本の四季の美しさに気づき、日本の自然を感じられる農業に打ち込んでいます。はじめに親子の体験用に準備された畝の前に集まり、説明を聞き、さあ芋掘りです。思ったより大きいお芋も多く、手で懸命に土を掻き出しながら夢中で掘っていました。「土いじりが楽しい」とみんな笑顔。収穫後には、「つぼ焼き」という専用器具で焼いたお芋がふるまわれ、「こんなおいしいお芋食べたことない!」との声が上がりました。

## 牧場と直売所の見学



次に向かったのは相澤良牧場。約40頭の乳牛を飼育しています。初めて見る牛に子どもたちがびっくりしていました。7年

前から牧場の牛乳だけを使ったソフトクリームを製造し、カフェを開業。6次産業化\*することで、経済的に好転したそうです。子どもたちが思わず笑顔になる、優しいミルク味が印象的でした。市街地の牧場なので、近隣との共存が気になりましたが、学校給食への提供や、児童の乳搾り体験などに積極的に取り組んでおり、むしろ地域のシンボルとなつたような牧場だと思いました。最後はグリーンファームあい菜フローラ店。花の苗や野菜が並んでおり、地元の新鮮な野菜の買い物をしました。

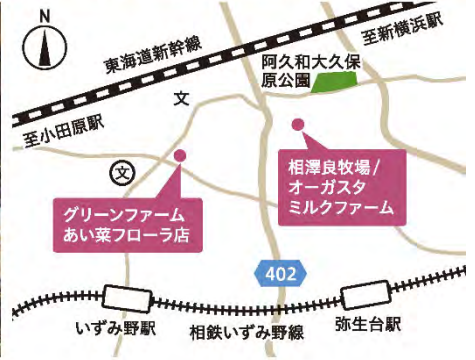
## 農とふれあう場づくりと大学との協働

今回のツアーは、横浜市環境創造局と農的資源を活用した地域活性化や環境に配慮した取組をすすめることを目的として、連携協定を結んだフェリス学院大学の学生さんと佐藤輝教授が企画運営に参加しました。当日は、学生さんがツアーガイドとして、クイズやインタビューを交えながら進行し、農の魅力を柔らかく伝える役割を果たしてくれました。



\*農林漁業者が生産から加工・販売までを手掛けること。(1次×2次×3次)





## 巡った場所をご紹介します



### 横山四季彩園(泉区)

菜花、アスパラ菜、トマト、サツマイモなど年間36品目の季節野菜を栽培し、直売所などで販売。横山さんがご用意してくださった「紅はるか」の焼き芋は専用の壺を使い低温で2時間ほどかけて焼いているため、甘くしっとりとしたお味が特徴。※通常は収穫体験は実施していません。

泉区直売所  
マップ



### 相澤良牧場/オーガスタミルクファーム

約70年の歴史があり、搾りたての新鮮な牛乳で濃厚なソフトクリームなどを作り販売。横浜の酪農家は13軒。横浜の酪農の歴史は古く、日本の牛乳製造販売も横浜が発祥。

- 住所: 瀬谷区阿久和南3-11-11 ●電話: 045-489-6211
- 営業時間: 10:30~16:00
- 休業日: 1月~3月中旬の月曜日・年末年始(3月下旬~12月は無休)

HPは  
こちら!



### グリーンファーム あい菜フローラ店

総合ガーデニングショップの中にある新鮮な地場野菜が買える野菜直売所。

- 住所: 瀬谷区阿久和南4-8-289 ●電話: 045-360-6887
- 営業時間: 春夏 9:30~18:30 秋冬 9:30~17:30
- 休業日: 1月・2月の水曜日

HPは  
こちら!



## 行ってみよう! 体験してみよう! /



収穫体験情報  
はこちら!



あぐりツアー  
はこちら!



青空市・直売所  
はこちら!

## ここがみどりアップ計画

計画では、農とのふれあいを楽しめる場づくりが進められています。あぐりツアーは、その取組のひとつとして実施している農産物の生産現場や直売所などを訪れる企画です。一緒に横浜の素敵な「農」を発見しましょう!





# 現地調査に行ってきました!

市民推進会議では、横浜みどり税を活用した横浜みどりアップ計画の取組について検証することを目的に、現地を視察する調査部会を毎年実施しています。

2019年10月に泉区を訪れました。文：高橋秀忠

横浜みどりアップ 葉っぱ



## 和泉小学校 1

2年前にピオトープへと再生された校内の「ニコニコ池」は総合学習の場としても活用されています。子どもを育む空間として維持管理するには、地域の方々のサポートが欠かせません。

## こはし 古橋市民の森 2 3

20年前までごみが多かった森が再生され、今年4月に市民の森になりました。訪れたときは、台風19号による倒木などで散策路が通れない状況になっており、愛護会の方は市の協力を得て、森の復旧に取り組んでいました。近隣の高齢者宅の庭木の剪定や庭の手入れなどにも大活躍、愛護会の方々は地域に頼られる存在となっています。

## 和泉町の水田 4

刈り取られた稲の「はさがけ」も見られ、秋の田園風景が広がっていました。

## Column

### 横浜の農と学校連携

横浜みどりアップ計画では地産地消推進の取組の一環として、市民や企業、大学と連携した様々な取組を行っています。例えば、フェリス学院大学の学生は、横浜市と連携して、Instagramで横浜の「農」と「食」に関する写真を投稿する「ハッシュタグ横浜農場キャンペーン」を実施しており、地産地消のPRなどに協力しています。これからの横浜の農には、市民参加が欠かせません。地産地消の推進に生かされるような活動(Action)に熱心に取り組む学生をととても頼もしく感じました。



## 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

## YOKOHAMA みどりアップACTIONとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のACTION(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



## ご意見・ご感想をお待ちしています!

みどりアップACTIONについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



## YOKOHAMAみどりアップACTION 第2号

(旧 みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第37号) 令和2年2月発行

編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会

発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

## 問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)

TEL:045-671-4214 FAX:045-641-3490

E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp





# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.3  
2021.2

花がとりもつ、  
人との出会い。



横浜みどりアップ計画





※撮影時のみマスクを外していただきました。



# 緑と花でつながる仲間の絆

園芸ボランティアみらいの  
皆さんに聞きました!

港北区にある新吉田地域ケアプラザ。敷地内に咲くきれいな花々をお手入れされているのが「園芸ボランティアみらい」です。その熱心な活動の原動力は？大事に育てられている花を見ることができるといえるベストな機会は？取材を通して見てきたのは、緑と花を介して結ばれる、人と人との絆でした。 文：奥井 奈都美、国吉 純

## 活動歴はなんと18年! 仲間との交流も楽しみのひとつ

園芸ボランティアみらいは、2000年に新吉田地域ケアプラザで開催された、園芸ボランティア養成講座の修了生が中心となり立ち上げたと言った代表の吉岡さん。設立から18年、メンバーひとりひとりが自分のスキルを上手に生かし、地域での大人の仲間づくりを楽しみながら、息の長い活動を続けています。

現在メンバーの平均年齢は80代。『ここで皆さんと会えるのが楽しみ』、『お花がきれいに咲くのが一番嬉しい』とおっしゃっていました。これが元気の秘訣ですね。

活動エリアは広く、ケアプラザのほとんどの植物を、年間を通してお手入れされています。そんな熱心な園芸活動が認められ、様々な賞を受賞しています。

## 港北オープンガーデンでお披露目



何った季節は秋、奥の花壇には、色とりどりの可愛らしい花が咲いていました。ポチュルカ、コスモス、ニラバナ、etc. 秋の美しい花がこんなにあったとは、と驚きました。皆さん、おしゃべりを楽しみながら伸び過ぎた枝葉をサクサクと手際よく切っています。毎年春に開催されている「港北オープンガーデン」に参加されているとのことなので、次のイベントでは是非ここに来て、春の花と皆さんの笑顔に再会したいと思います。



活動を始められた頃の様子

### ここが みどりアップ 計画

緑や花に親しむ市民の盛り上げを醸成するため、「地域に根差した緑や花の楽しみづくり」を進めています。その取組のひとつとして、港北オープンガーデンの運営を支援し、地域発の緑の活動に寄り添っています。







港北区の職員の方に  
聞きました!



※2019年度のオープンガーデンの様子。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み中止となりました。



## 港北オープンガーデンとは?

転入者の多い港北区において、地域への愛着を深めてもらおうと始まった取組です。2013年から毎年春に開催\*され、期間中、会場となっている個人庭や地域の方々がお手入れしている花壇を楽しむことができます。オープンガーデンの企画・運営は、区民ボランティアと港北区役所で組織された「港北オープンガーデン運営委員会」が担っています。ボランティアスタッフに

よる案内所設置や、人気企画のガイドツアーもあり、会場間を楽しみながら歩けるような工夫も。区民の方々に支えられた、地域に根差したイベントになっていますね。お庭のオーナーさんとボランティア、参加者…多様な人たちの出会いの場にもなり、地域の絆が育まれているそうです。緑と花が人にもたらす力を感じました。

港北オープンガーデン 詳しくはこちら!



## やってみようガーデニング ～春の花を楽しむ～

花を置いて楽しみたくなったら、難しく考えず、園芸店などに行って苗を買うことから始めましょう。名前がわからなくても、好きな色の花を選んでベランダやお庭でガーデニングをしてみませんか? 蕾が多くて、しっかりとした苗がおすすめです!



葉裏の病気の跡や虫の有無もチェックしておくといいでしょう!

### 植え方

- 1 プランターに鉢底石をひと並べする。
- 2 肥料を混ぜた培養土を鉢の半分くらいまで入れる。
- 3 花苗を置く。鉢から1cmくらい下まで土がくるように。低すぎるときは調整する。
- 4 苗の周りに土を入れる。割り箸などで隙間なく土が入るように突く。
- 5 苗の土と同じ高さまで土が入り、苗がぐらつかなくなったら完成。
- 6 花に水がかからないようにたっぷり水やりをする。鉢底から水が流れるのを確認したらもう一度、水が流れるまで水やりをする。



### 春の花壇やプランターに向く花

春の庭やベランダでは優しいパステルカラーの花色がたくさん出回ります。

- 🌸 青い花: ワスレナグサ、ネモフィラ、ブルーデージー
- 🌸 黄色い花: クリサンセマム・ムルチコーレ、カレンジュラ
- 🌸 白い花: スイートアリッサム、ノースポール、マーガレット
- 🌸 ピンクの花: リナリア、キンギョソウ、オステオスペルマム、etc.





# 身近な緑、 増えています!!

横浜みどりアップ計画では、今ある樹林地や農地を守るだけでなく、多くの市民の皆さんの目にふれる場所で、緑豊かな空間を新たに作っています。今回は、「シンボリックな緑の創出・育成」の取組として新たに整備された公園をご紹介します!



## 六角橋四丁目公園

中央に芝生広場があり、眺めがよく、季節の花も楽しめます。シンボルツリーとして芝生広場の中央に植えられている木は、区の木でもある「コブシ」です。まちなかに心地良い空間が生まれました。



**所在**  
神奈川県横浜市六角橋4-720-4

**アクセス**  
横浜駅から市営バス50系統・  
神大寺入口行  
県営栗田谷住宅前バス停下車  
徒歩2分

皆さんの身近な場所にも「新しい緑」があるかも!?  
ぜひ、見つけてみてください!

横浜みどりアップ計画

これが  
目印!



## 苗木の数だけ思い出がある 「人生記念樹」

横浜みどりアップ計画では、多くの市民の皆さんが緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、人生記念樹として苗木を配布しています。思い出とともに人生記念樹を育ててみませんか? インターネットまたは各区の区役所で配布している専用はがきで申し込みます。

区の木などの中から、  
お好きな苗木を  
選べます!

詳しくは  
こちら!



### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

### 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

### Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



### ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくは  
こちら!



### YokohamaみどりアップAction 第3号

(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第38号)令和3年2月発行  
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会  
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

### 問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093  
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp





# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.4  
2021.3

森と過ごす  
幸せな時間。



横浜みどりアップ計画





# 市民の森って何？

「市民の森」、聞いたことはありますか？市民の森は横浜市独自の制度により守られた、散策できる樹林地です。実は、土地所有者を始めとした多くの方の支えにより利用できています。今回は、オープンしたばかりの「長津田宿市民の森」を訪ねながら、市民の森についてご紹介します。

文：高田房枝、高橋秀忠、村松晶子



## 実は身近にあった市民の森

長津田宿市民の森の出入口は民家のすぐ先にあり、街の中にひょっこり現れる印象です。公園と違い門はなく案内板が目印となっていて、日の出から日没まで自由に出入りできます。私たちが散策できるこのような市民の森は市内に47か所\*あり、多くは土地所有者と横浜市が契約することで公開されています。こんなに身近なところに森があるなんて、驚く方も多いのでは？



## 市民の森で見つけた整備の工夫

入口の先には木漏れ日注ぐ樹林地が広がり、街の喧騒から一転、森の精気が感じられます。中は散策路やステージのような広場、野外卓が整備され、親子連れが楽しそうに利用していました。急な斜面地は柵で囲われ安全も確保されています。森の整備にあたっては、その森が持つ景観や特徴を生かせるよう工夫しているそうです。森ごとに異なる表情を楽しみたいですね。



\*2021年3月現在。40か所を公開中。







1. 森づくりボランティア体験会 2. クロアゲハ 3. 保全管理計画の打合せ 4. マルバスマシ 5. ウグイスカグラ 6. アカネスミレ 7. 保全管理計画フォローアップ研修  
8. 長津田市民の森案内板

市民の森  
ガイドマップ  
はこちら!



### 森づくりの担い手 やってみよう!

市民の森では、森を良好な状態に保つため「市民の森愛護会」や「森づくり活動団体」として多くの市民が活躍しています。下草刈りから樹木の手入れまで多種多様な活動をしています。森に興味がある方は、はじめてでも気軽に参加できる「森づくり体験会」があるので、森と関わるはじめての一步を体験してみませんか？

#### 森づくりボランティア —森づくり体験会—

美しく様々な生き物が暮らす豊かな横浜の森は、森づくり活動により守り育まれています。手を入れるとこたえてくれる、森の魅力を味わってみてはいかがでしょう。



### みんなで考える 保全管理計画

将来にわたって良好な森を保つためには、計画的な管理が欠かせません。市民の森では、愛護会、土地所有者、ボランティアなどの市民と行政、専門家が集まって話し合い、未来の森の姿を描いた「保全管理計画」を作っているそうです。

計画では、林・草地・谷戸・土手などの自然環境面や、生き物の保全・育成や環境学習といった機能面、安全面から区域を分け、区域ごとの管理方法などが決められていました。このようにしてみんなの森がつくれ、保たれているんですね。



### まずは訪ねてみましょう やってみよう!

市民による、市民のための「市民の森」、いかがでしたか？市民の森には、夏の朝に広場の木陰で朝刊を読んだり、鳥や植物の観察会、愛護会が開催するイベント（切った竹で流しそうめんやパームクーヘンづくりなど）に参加したりと、色々な楽しみ方があります。市主催の森づくり体験会に参加してみても良いかもしれません。まずは、お住まいの近くの市民の森を探して、公園とひと味違う市民の森を楽しんでみてください！

#### 市民の森ではフィールド マナーを守りましょう!

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 道からはずれない                | 生きものを<br>持ち帰らない<br>持ち込まない |
| ごみタバコ等は<br>捨てずに<br>持ち帰る | 利用時間は<br>日の出から<br>日没まで    |
| 火・コンロは<br>使わない          | ペットは<br>つないで              |

#### ここにみどり税

市民の森の整備や維持管理、愛護会・森づくり活動団体の支援、保全管理計画づくりなどに横浜みどり税が使われています。



横浜みどりアップ 葉っぴー



# 2020年4月オープン! 長津田宿市民の森

おのたちらくがん  
長津田十景\*のひとつ「御野立落雁」すぐ近くにある約3.0 haの森で、日々の散策や自然観察、憩いの場として利用できるエリアと、斜面緑地を保全する樹林保護区(非公開)とがあります。

目を引くのは森の中央にある、まるでステージのような、緩やかな斜面を持った広場です。かつて耕作が行われていた場所を生かして整備されました。



アクセス良好で長津田駅から散歩気分が訪れることができます♪



**所在** 横浜市緑区長津田町2365-2  
**アクセス** JR横浜線・東急田園都市線長津田駅南口より徒歩10分  
(駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。)

長津田宿市民の森のマップはこちら!



※長津田十景詳しくはこちら!



## 市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市民の森をレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

### 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

### Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!

※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



### ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



**YokohamaみどりアップAction 第4号**  
(旧みどりアップQ)(市民推進会議広報誌第39号)令和3年3月発行  
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会  
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

**問合せ**  
横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093  
E-mail:ks-mimiplan@city.yokohama.jp





# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.5  
2021.11



農園付公園に  
行ってみよう。

横浜みどりアップ計画





① 岡津町ふれあい公園 ② アドバイスをする栽培相談員 ③ 団体区画利用の保育園児

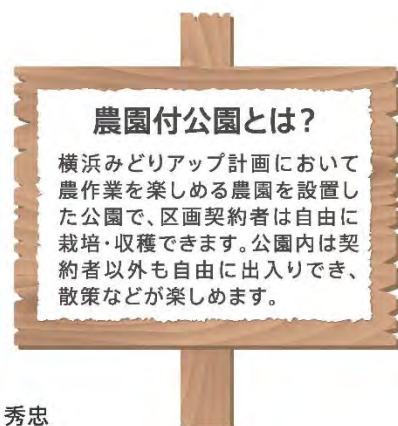
## 農園付公園で 野菜づくりをはじめませんか？

梅雨明け間もない晴天の7月、泉区緑園都市に近い「岡津町ふれあい公園」を訪問しました。

公園といっても中央に広がるのは農園、そして周りを囲む樹林。

ここには、子どもや高齢者、障害のある方、

誰もが野菜や土に親しめるきっかけがありそうです。 文：奥井 奈都美、高橋 秀忠



### 農園付公園とは？

横浜みどりアップ計画において農作業を楽しめる農園を設置した公園で、区画契約者は自由に栽培・収穫できます。公園内は契約者以外も自由に出入りでき、散策などが楽しめます。



### 自分だけの畑で 自分なりの野菜づくり

農体験ゾーンの団体区画で最初にあったのは、かわいい利用者さん。地元保育園の園児でした。ちょうど収穫にきたところで、手に持っている野菜を見せてもらおうと、ピーマン、トマト、ナス、ししとうと色鮮やかな夏野菜でした。「どんな野菜が好き？」という問いかけに、意外にも「ピーマン！」という元気な声。保育園では収穫した野菜を調理し、給食として食べているそう。みんな自分の手で育てた野菜の美味しさをよく知っているんですね。

2年以上個人区画を利用しているという方にも畑を見せていただくと、こちらも立派なトマト、ナス、オクラが育っていました。話を聞くと、せっかく美味しそうに育ったトウモロコシを、ハクビシンに食べられてしまったとのこと。畑の周りをしっかりと網で囲って獣害対策をしていました。



### 初めてでも 誰でも楽しめる！

公園にいる指定管理者の栽培相談員が、土づくりをはじめ、植付けから収穫までの野菜の育て方を定期的にアドバイスしてくれます。クワやスコップ、ジョウロ、バケツなどの道具の無料貸出しや土の酸度を測定するサービスも。菜園活動をサポートしてもらえます。

園内には、車イスのままでも野菜づくりが楽しめる「ハートフル菜園」もありました。ここでは近隣の特別養護老人ホームと協働で野菜づくりをしているそうです。





## 岡津町ふれあい公園の案内図



① 栽培相談員と談笑する利用者 ② ハートフル菜園で植え付けする利用者 ③ 協働農園では地域の方と農作業も



### 公園×野菜づくり＝ 地域交流?!

この公園を管理しているのは、横浜に根差して130年の歴史を持つ種苗会社。利用者の皆さんは専門の会社から種や肥料を注文することもできるので安心ですね。ここでは「はまっ子ユーキ」という、市内の公園緑地や街路樹の管理で出た剪定枝や刈草をリサイクルした環境にやさしい堆肥を提供していました。

感染症が流行する前は、近隣の特別養護老人ホームと連携しながら、農園で採れた野菜を使ってBBQや焼き芋をして、地域の皆さんとの交流を図っていました。再開を楽しみに待っている人もきっと多いことでしょう。



### ここにみどり税

みどりアップ計画では、市民が身近に農体験ができる公園として、農園付公園を設置しています。公園整備に横浜みどり税を使っています。

横浜みどりアップ 葉っぱ





# 市内の農園のある公園

農園のある公園は市内に14か所あり、初心者からベテランの方までたくさんの方が野菜づくりを楽しんでいます。園内を散策することもできますので、まずはお近くの公園に足を運んで農を感じてみてはいかがでしょうか。



## 市内の農園のある公園

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 大榎杉の森ふれあい公園  | 都筑区大榎町472-1    |
| ② 若草台第二公園      | 青葉区若草台6-1      |
| ③ 師岡町梅の丘公園     | 港北区師岡町511-3    |
| ④ 東寺尾一丁目ふれあい公園 | 鶴見区東寺尾1丁目66-1  |
| ⑤ 菅田町赤坂公園      | 神奈川区菅田町222-1   |
| ⑥ 仏向原ふれあい公園    | 保土ヶ谷区仏向町1252番1 |
| ⑦ 南本宿公園        | 旭区南本宿町37-4     |
| ⑧ 南本宿第三公園      | 旭区南本宿町81-3     |
| ⑨ 阿久和富士見小金台公園  | 瀬谷区阿久和東2丁目61-1 |
| ⑩ 今井の丘公園       | 保土ヶ谷区新桜ヶ丘1丁目42 |
| ⑪ 岡津町ふれあい公園    | 泉区岡津町2623      |
| ⑫ 泉が丘公園        | 泉区和泉が丘3丁目6     |
| ⑬ 和泉アカシア公園     | 泉区下和泉1丁目8      |
| ⑭ 深谷町ふれあい公園    | 戸塚区深谷町1272-5   |

☆区画の空き状況、利用料金等については、各公園の指定管理者にお問い合わせください。(各公園のホームページも参考にしてください)

# 市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。「農」をテーマにレポートしたバックナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください!

詳しくはこちら!



## 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

## Yokohama

## みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!  
※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



## ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



## YokohamaみどりアップAction 第5号

(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第40号) 令和3年11月発行

編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

## 問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.6  
2022.02

みどりがつなぐ  
活動のバトン







① 興味をもった保育園児も参加

## レガシーつなぐ花時計



みなとみらい地区の運河パークに丸い花時計(日時計)があります。これは、2009年に開催された「開国博Y150」を祝して、横浜青年会議所と市内企業を中心とする実行委員会により開国博入り口前に作られました。当時は30m×40mの大きなものでしたが、終了後の撤去を惜しむ声があがり、市民団体が維持管理を引き継いで、モニュメント周辺部分に縮小して存続しています。10年以上にわたって、市民団体の方々による緑のまちづくりの活動として、ボランティア参加の市民とともに花時計を育んできました。 文: 国吉 純、村松 晶子



### 花時計に関わる 多くの人々の協力

現在、花時計は「NPO法人横浜移動サービス協議会」によって維持管理されています。開国博時の幹事会社や公益財団法人横浜市緑の協会の支援をもとに活動を進め、「一般社団法人横浜みなとみらい21」からはタネや苗の支援をしています。隣接するホテルは、当初より協力いただき駐車場に園芸道具の収納場所を提供。それによって重い道具等を自宅から持っていく必要がなくなりました。今後、ロープウェイで乗降する観光客の方達とのワークショップの開催など、周辺の企業ともいろいろな連携ができることを期待しています。



### だれでも参加できる 花壇の手入れ

月2回の作業日には、近隣の自治会や福祉作業所、保育園の子供たちが植替えや水やりに来ています。作業日以外にも水やりなど、気づいた時に手入れをしているそうです。車椅子の方々には貴重な屋外活動であり、子供たちにとっては車椅子の方と交流する機会ともなっています。花壇の手入れをしていると、通りすがりの人が手伝ってくれることもあります。花の好きな人には土に触れることができる魅力的な場です。「花壇のボランティアはいつでも大歓迎!」とのこと。



### 花時計から未来へ

2021年4月に桜木町駅から花時計のあるところまでロープウェイが開業。この花時計の花壇と活動の様子をロープウェイを利用する方々、そして駅から散策する方々の目にとまる機会が増えました。今後は、関内駅からこの花壇までの道のりを新たに花のアプローチで繋ぐ企画を考えているそうです。これによって駅と駅、花と花、そして人と人との繋がりがさらに発展していくことになるでしょう。

開国博の記憶とみなとみらいのシンボルとして、企業、市民、行政が協働して美しい花壇を続けていってほしいと願っています。



### ここにみどり税

地域緑のまちづくり事業では、「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理などにみどり税を活用して、緑のまちづくりに地域と協働で取り組んでいます。

横浜みどりアップ 葉っぱー







②、③維持管理活動の様子 ④花壇に咲くマリーゴールド ⑤多くの人の目に留まる立地  
⑥園芸道具 ⑦花時計を中心に自然と交流が生まれる

## みなとみらい21新港地区の 地域緑のまちづくり

みなとみらい21地区などの都心臨海部では、これまでも様々な場所で地域が連携して緑や花によって街を彩る取組が進められています。緑や花で彩られたみなとみらいにぜひお越しください。



①アニヴェルセルみなとみらい横浜(16街区)での緑化 ②マリン&ウォーク横浜(4街区)での緑化  
③グランドオリエンタルみなとみらい(11-2街区)での緑化 ④新港中央広場(8街区)での緑化





# 地域緑のまちづくり 実施一覧

旭区 若葉台もみじ自治会周辺地区



磯子区 洋光台五街区周辺地区



港北区 綱島西地区



中区 山下公園通り地区



- ★ 2020年度協定締結地区
- 2019年度協定締結地区
- 協定締結期間終了地区

2021年4月現在

地域緑のまちづくりについてはこちら

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori\\_up/3ryokuka/chiikimidori/chiiimidori2.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/3ryokuka/chiikimidori/chiiimidori2.html)  
 問合せ先: 横浜市環境創造局みどりアップ推進課(緑化推進担当) 電話番号: 045-671-3447 E-mail: ks-ryoka@city.yokohama.jp



## 横浜みどりアップ計画とは?

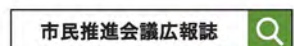
緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

## Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!!  
 ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。



## ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第6号  
 (旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第41号) 令和4年2月発行  
 編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
 発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ  
 横浜市環境創造局政策課(事務局)  
 TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
 E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp





横浜みどりアップ計画  
市民推進会議広報誌

# Yokohama みどりアップ Action

市民が発信  
Vol.7  
2022.10

市民農業大学講座で学ぶ  
「みどり」の助っ人



横浜みどりアップ計画





## 農や緑を支える人材の育成支援



緑を守りつくるため、横浜市では市民が活動しています。みどりアップ計画の3つの柱のうち「農」と「都市の緑と花」の助っ人をめざして、市民が学ぶ場が市民農業大学講座です。講座の様子と熱心な受講生の声を取材しました。なお、計画のもう一つの柱「森」を担う人材育成については次号で特集する予定です。 文：高橋 秀忠、村松 晶子

### 市民農業大学講座とは？

野菜や果樹、草花、植木の栽培管理などの基礎を学び、座学で得た知識を実践しながら、栽培技術を身に付けることができる、横浜市主催の有料講座です。

受講生は30人。1年目は、主に保土ヶ谷区にある「環境活動支援センター」での講座(35回)。2年目は、市内の生産農家での農作業実習(10回)になります。

※実習回数は年度により異なる場合があります。



詳しくはこちら！



①座学で当日のカリキュラムを学びます

### 楽しみながら農業を学んでいます

取材時は、1年目の受講生がトマトやナスなどの収穫、ニンジンの種まき、花壇の管理を4グループに分かれて、和気あいあいとした雰囲気を実習していました。

花壇の植栽計画は、各グループが話し合い、作成します。春は春夏の草花、秋は秋冬の草花による個性豊かな花壇が出来上がります。

受講のきっかけは様々で、

- ボランティア活動の中でさらに知識を深めたい
- 市内に転入してから、程なくして「横浜農場」※を知り農業について学ぶことに心が動いた
- 昔やっていた花の手入りを再開したい

など、横浜の緑を、さらに大事にしたい思いが伝わってきました。

中には、新規に農業参入を目指し横浜ブランドの野菜を作りたい、と意気込んでいる人もいました。どなたも生き生きとした表情が印象的でした。

※「横浜農場」とは、農に関わる生産者や市民、農地・農景観、農業生産活動など「横浜らしい農業全体」を一つの農場に見立て、横浜の食や農のブランド化や魅力発信を目指す言葉です。



②種まきの事前準備





③トマトの収穫方法実習、④プロモを使う種まき機を使用したニンジンの種まき実習、  
⑤⑥育成した野菜や花、⑦花壇の植栽管理実習、⑧ナシの袋掛け実習

## 今後の活躍に期待！

2年間の受講の後は「農と緑の環境リーダー」として、農作業の手伝い(援農)や、公園・緑地でのボランティア活動などの場で活躍しています。

すでにボランティア団体や、シルバー人材センターに登録している人もいて、さらに活動を広げることが期待できます。「援農を希望するけれど、農家が受け入れてくれるか心配」という声もあり、修了生と農家との十分な橋渡しが大事だと思います。

## 修了生の自主組織『はま農楽』

市民農業大学の修了生たちが交流・技術・情報交換を深め、援農、緑化、農地保全などの活動を進めるために「はま農楽」という自主組織を設立しています。110人ほどの会員で、花班、野菜班、果樹班で、それぞれ毎週フォローアップ研修を行い、収穫祭や収穫体験などをしています(新型コロナウイルス感染症の影響で中止もありました)。

援農については、昨年度は農家からの要望に応じて、延べ日数で、野菜942日、花卉128日、果樹1,342日の手伝いをしたそうです。横浜のような大都市では、市民が農家を手伝う形の援農が進むと良いと思います。「はま農楽」の活動に、今後も期待します。



ホームページはこちら

## フォローアップ研修



## ここがみどりアップ計画

農とふれあう場づくりとして、市民が農を楽しむ支援する取組を進めています。市民農業大学講座以外にも、子ども向けの農体験教室や、家族で参加できる農体験講座を、市内各地の水田や畑などで開催しています。

横浜みどりアップ 葉っぱー



# 環境活動支援センターって こんなところ

市民農業大学講座を開催している環境活動支援センターでは、子ども(小学生)とその家族を対象に農作業を体験できる「家族で学ぶ農体験講座」など様々なイベントも開催しています。

また、森の情報を発信し、魅力を伝える「交流スペース」や数十種類のハーブが見られる「ハーブガーデン」など見所が満載です。

ぜひ、一度「環境活動支援センター」に足を運んでみてください!

【所在地】 保土ヶ谷区狩場町213

【アクセス】 最寄りのバス停は「児童遊園地前」・「児童遊園地入口」・「権太坂上」です。各鉄道駅からの案内はこちらからご確認ください。



案内・アクセスはこちら



## 市民推進会議広報誌・バックナンバー公開中!



市民推進会議広報誌のバックナンバーを横浜市のHPで公開しています。市内の農についてレポートしたナンバーもあるので、ぜひアクセスしてみてください。

詳しくはこちら!



### 横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民と一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。

### 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

### Yokohama みどりアップActionとは?

みどりアップの現場を市民目線でレポートし、その場へ「行ってみよう」「見つけてみよう」と思えるような緑の魅力をお伝えします。私たち市民委員と一緒に緑のAction(行動・活動)を起こしましょう!! ※令和元年度に「みどりアップQ」からリニューアルしました。

市民推進会議広報誌



### ご意見・ご感想を お待ちしております!

みどりアップActionについて、ご意見・ご感想、取り上げてほしい特集テーマなどのご要望をお待ちしています。いただきましたご意見・ご要望は、今後の発行の参考にさせていただきます。

詳しくはこちら!



YokohamaみどりアップAction 第7号  
(旧みどりアップQ) (市民推進会議広報誌第42号) 令和4年10月発行  
編集: 横浜みどりアップ計画市民推進会議広報・見える化部会  
発行: 横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ  
横浜市環境創造局政策課(事務局)  
TEL: 045-671-4214 FAX: 045-550-4093  
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp

















# ヨコハマ 「森づくり体験会」

森づくりボランティアしませんか？

参加者  
募集

「森づくり体験会（ボランティア）」に  
参加して、身近な森をもっとよく知り、  
まもる活動を一緒にしませんか？

横浜には、大都市でありながら  
多くの樹林地が残されています。  
良好な森を維持するためには、人  
の手による管理が必要で、管理が  
行き届かないために荒れてしまっ  
森も少なくありません。



横浜には緑豊かな樹林地が多く残されています



良好に管理された森で  
散歩や森林浴を！

## 森づくり体験会とは？

「森でボランティアをしてみたい!」と思った方と、手入れを必要  
としている緑地との橋渡しをお手伝いするプログラムで、草刈り  
や小さな木の伐採等、森の管理の基本となる作業を行います。  
スタッフがしているので初心者でも安心してご参加いただけます。



小さな木の間伐作業

こんな作業を  
します！



ササ刈り作業

## 森づくり体験会に参加すると??

ボランティア活動したことを  
『証明するカード』がもらえます！

さらに

- ・身近な森を守る活動ができます。
- ・森づくり活動に必要な技術・知識が身に付きます。
- ・市内で活躍する森づくりボランティアとの交流ができます！



森づくり  
ボランティアに  
参加しました!

## 森づくり体験会の詳細・申込はこちら!

※QRコードを読み込むか、URLにアクセスしてください。  
URL : <https://nora-yokohama.org/join/?cat=153>  
【森づくり体験会運営団体（よこはま里山研究所 NORA）のホームページにリンクしています】  
※申込み先着順で定員になり次第申込み締め切りとなります。



開催日・場所等、  
最新情報  
が確認  
できます。



※森づくり体験会への参加には森づくりボランティアへの登録が必要です。(参加当日の登録も可) 森づくりボランティア、登録方法についての詳細は裏面をご覧ください。

発行 | 横浜みどりアップ計画市民推進会議  
広報・見える化部会

問合せ | 横浜市環境創造局政策課  
電話 045-671-4214 FAX 045-550-4093  
Eメール : [ks-mimiplan@city.yokohama.jp](mailto:ks-mimiplan@city.yokohama.jp)





# 森づくりボランティアについて

横浜の森では、多くのボランティアの方たちが生き物の多様性や人の利用等に配慮した草刈り、間伐、生き物調査といった「森づくり活動」を行っています。横浜市はそのようなボランティアの方たちに、様々な支援を行っています。

※森づくりボランティアは、横浜市市民協働による森づくりに関する要綱に基づく制度です。

## ■登録条件は？

・18歳以上の横浜市在住・在学・在勤の方

## ■森づくりボランティアに登録すると？

こんな支援が受けられます！

### ニュースレターによる情報提供



#### よこはまの森ニュースレター

森づくり活動団体や森づくりグループの紹介、イベント等、森づくりに役立つ情報をお届けします。

### 森づくりに関する研修案内



#### 自然観察講習会チラシ 森づくり体験会チラシ

森づくりに関する技術・知識を学ぶことのできる研修等の情報や森づくりを行っている団体の情報提供を受けることができます。

※体験会当日の登録もOK!

### 森づくりボランティア登録のながれ

- ①横浜市みどりアップ推進課ホームページから申請書をダウンロード
- ②みどりアップ推進課に申請書提出（メール・FAX可）
- ③承認・登録完了

みどりアップ推進課 HP（森づくりボランティア 支援の仕組みと手続き）

[https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori\\_up/1mori/volunteer/mori-youkou.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/midori_up/1mori/volunteer/mori-youkou.html)



### 横浜みどりアップ計画とは？

豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています

横浜みどりアップ計画



横浜みどりアップ 葉っぴー

2023年〇月発行  
横浜みどりアップ計画市民推進会議